

平成 28 年度

厚生労働省保健指導支援事業人材育成事業

保健指導ミーティングの開催
実施報告

公益社団法人 日本看護協会

平成 29 年 3 月

目 次

1. 背景と実施経過	1
2. 平成 28 年度実施の特徴	2
3. 平成 28 年度実施状況	
1) 実施期間	3
2) 保健指導ミーティングの公募について	3
3) 開催日時・会議名・開催場所等	4
4) 実施結果	5
(1) 参加者の属性と延べ人数	5
(2) 企画・実施内容	
①周知の工夫	6
②事前打合せ	10
③保健指導ミーティングのプログラム内容	13
④実践事例発表で取り上げた事例	16
(3) 評価	17
(4) 16 県から出された考察とまとめ（抜粋）	20
(5) 参加者アンケートの実施結果	24
4. 平成 28 年度実施結果のまとめ	26
5. 今後の保健指導ミーティングの開催に向けて	27
6. 保健指導ミーティング県別実施報告	
秋田県	30
山形県	39
茨城県	48
栃木県	57
埼玉県	67
長野県	75
富山県	84
石川県	92
福井県	101
愛知県	113
三重県	122
和歌山県	131
福岡県	140
佐賀県	149
大分県	158
鹿児島県	167
資 料	
・平成 28 年度保健指導ミーティング参加者アンケート	178

1. 背景と実施経過

少子超高齢化の急速な進展に伴い日本人の疾病構造は変化し、生活習慣病の割合が増加してきた。生涯にわたる生活の質の維持・向上のためには、健康寿命の延伸や健康格差の縮小が求められている。そのためには、発症、あるいは重症化予防の取り組みが重要かつ喫緊の課題であり、保健師にはより高度な保健指導のスキルが求められる。

一方、保健師が効果的な保健指導を行うためには、単なる講義の聴講や、ノウハウの伝達研修だけでは不十分である。地域の実情に応じた医療・看護・介護の提供体制の整備、健康的な暮らしを支える社会環境へのアプローチが重要となる。特に近年、格差社会等の背景を受け、複雑困難な事例への対応が迫られることも増加しており、行政、企業、医療機関、地域包括支援センター、健診・医療機関など多様な場で活動する保健師間の相互支援、情報共有や学びあうの場や仕組みづくりが不可欠となる。

こうした背景を受け、本会では地域保健活動の普及と充実をはかることを目的に、平成20年度から、厚生労働省より「保健指導支援事業人材育成事業」を受託し、「保健指導ミーティング」として企画・開催し、今年で9年目を迎えた。

平成25年度からは、「保健指導ミーティング」の実践事例発表やグループ討議での事例検討を通じ、新任保健師に対して、新任に必要な個別事例のアセスメント能力が育成される契機となることを目指し、新任及びプリセプター（指導）保健師を主対象に「保健指導ミーティング」を開催。平成26年度からは本会が開発した事例検討会の手法「実践力 Up 事例検討会」を提示し、「保健指導ミーティング」にとり入れることを推奨し開催している。

保健指導ミーティングについて

1) 保健指導ミーティングとは

「保健指導ミーティング」は、①保健師の事例検討や実践事例発表、②保健師同士のグループ討議を主たる内容とし、日本看護協会と各都道府県看護協会とが協働して企画・実施する事業である。

行政分野の保健師のみに留まらず、産業や医療・福祉・教育機関の保健師も含めて一堂に会し、事例の検討やお互いの実践を振り返り、スキルアップを図ることにより、保健師の専門性を発揮するための基盤強化を目指す研修プログラムである。

2) 開催テーマ

○生活習慣病予防

保健指導ミーティング開始にあたり、保健指導に従事する各領域の保健師が一堂に会し、保健指導のスキルアップを図るためには、各領域の保健師に共通のテーマである「生活習慣病予防」をテーマとすることが有効であるとしている。

2. 平成 28 年度実施の特徴

平成 28 年度については、平成 27 年度以前から引き続き、新任期及びプリセプター（指導）保健師を主な対象に開催。生活習慣病予防（厚生労働省保健指導支援事業）をテーマに取り入れ 16 県で実施した。愛知県では初めての開催となった。

参加者は、行政分野にとどまらず、地域包括支援センターをはじめ、産業、健診・医療機関、福祉等の領域で働く保健師への周知に力点を置き、領域の拡大を図った。

引き続き、本会が開発した事例検討会の手法「実践力 Up 事例検討会」を保健指導ミーティングにとり入れることを推奨し開催。また、各道府県の取り組みを支援するためのツールとして、本会が平成 26 年度に作成した「ファシリテーターの手引き」を活用し、ファシリテーターの育成・効果的なグループワーク実践に取り組んだ。

3. 平成 28 年度実施状況

1) 実施期間

平成 28 年 9 月～平成 29 年 1 月

2) 保健指導ミーティングの公募について

(1) 公募期間

平成 28 年 6 月～7 月

(2) 募集要件

- ① 都道府県看護協会保健師職能委員会の企画であること
- ② 新任期保健師及びその指導保健師を主たる対象とした企画であること
- ③ 都道府県看護協会会長の理解が得られること
- ④ 都道府県の関係主管課と連携していること
- ⑤ 関係組織・団体と連携し、多様な活動領域（行政・地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、福祉、その他）の保健師が参加できるように、周知が図られること
- ⑥ 実施は平成 28 年 9 月から平成 29 年 1 月までに行うこと
- ⑦ 新任期保健師自らの保健指導の実践事例の検討会をプログラムに取り入れること
- ⑧ 保健指導ミーティングの評価を行うこと
- ⑨ 以下の点に留意した保健指導ミーティングを開催できること
 - ・本会が構築した事例検討会の手法をとり入れて、ミーティングが開催できること
 - ・指導保健師自らも学ぶことに加え、新任期保健師に対する今後の支援に活かすことができるよう配慮すること
 - ・新任期保健師と指導保健師が、事例検討を通して得た学びを発表・意見交換するようなグループ討議の進め方やファシリテーションの工夫を行うこと

(3) 結果

公募の結果、合計 21 道府県からの応募があった。

うち生活習慣病予防をテーマとした保健指導ミーティング（厚生労働省保健指導支援事業）は、16 県（秋田県、山形県、茨城県、栃木県、埼玉県、長野県、富山県、石川県、福井県、愛知県、三重県、和歌山県、福岡県、佐賀県、大分県、鹿児島県）で開催することとなった。

本報告書では、以降、上記 16 県について報告する。

3) 保健指導ミーティング開催県の開催日時・会議名・開催場所・今年度含む実施回数（何回目）

県協会	開催日	時間	会議名	会場	実施回数
秋田県	10/3(月)	9:30-16:00	新任期保健師研修	秋田県北秋田地域振興局鷹巣阿仁福祉環境部（北秋田保健所）	3回目
山形県	11/12(土)	10:00-16:00	平成 28 年度保健師人材育成研修会 保健師のための行政学入門	山形県看護協会 研修会館	4回目
茨城県	11/10(木)	10:00-16:00	平成 28 年度保健指導ミーティング	茨城県看護協会 看護研修センター	8回目
栃木県	12/10(土)	10:00-16:00	効果的な保健指導を行うための保健指導ミーティング	自治医科大学	4回目
埼玉県	11/12 (土) 12/3 (土)	13:00-16:00 13:00-16:00	平成 28 年度保健指導ミーティング	埼玉県看護協会 埼玉地域看護研修センター	4回目
長野県	12/19(月)	13:00-16:30	保健指導事業「保健指導ミーティング」	長野県看護協会	2回目
富山県	12/3 (土)	10:00-16:00	やってみよう実践力アップ事例検討会	富山県看護研修センター	2回目
石川県	11/12(土)	10:00-15:30	保健指導ミーティング in 石川	石川県地場産業振興センター	7回目
福井県	9/17(土) 11/4 (金) 11/9 (水) 11/20 (日)	13:00-16:30 14:00-17:00 13:30-16:30 13:30-16:30	実践力アップ事例検討会	福井県看護協会 若狭町上中庁舎 2 階会議室 松岡福祉総合センター アイアイ鯖江・健康福祉センター	4回目
愛知県	12/10(土)	13:00-16:45	保健指導ミーティング	ウインクあいち	1回目
三重県	12/3(土)	10:00-16:00	実践力 UP 事例検討会	三重県看護会館	3回目
和歌山県	12/10(土)	13:00-16:30	実践力 UP 事例検討会	和歌山県看護研修センター	5回目
福岡県	1/14(土)	13:00-16:00	保健指導ミーティング	ナースプラザ福岡	4回目
佐賀県	11/12(土)	9:00-12:40	保健指導ミーティング (実践力 UP 事例検討会)	佐賀県看護協会 看護センター	6回目
大分県	1/7(土)	9:15-12:30	保健指導ミーティング	大分県看護研修会館	8回目
鹿児島県	1/20(金)	10:00-16:00	保健指導ミーティング研修会	始良保健所	7回目

4) 実施結果

(1) 参加者の属性と延べ人数

(単位：人)

	行政	医療	産業	福祉	その他 (ファシリテ ータ含む)	参加者(運営 スタッフ含む) 合計 (新任期再掲)	参加者 のみ (運営スタ ッフ除く)	運営 スタッフ
秋田県 (新任期再掲)	29 (15)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (0)	33 (16)	21	12
山形県 (新任期再掲)	39 (7)	0 (0)	5 (0)	1 (0)	1 (0)	46 (7)	33	13
茨城県 (新任期再掲)	30 (19)	1 (1)	4 (3)	3 (1)	0 (0)	38 (24)	25	13
栃木県 (新任期再掲)	35 (19)	0 (0)	6 (3)	0 (0)	3 (0)	44 (22)	27	17
埼玉県【1回目】 (新任期再掲)	23 (8)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	26 (10)	12	14
埼玉県【2回目】 (新任期再掲)	22 (7)	0 (0)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	26 (10)	11	15
長野県 (新任期再掲)	45 (30)	4 (1)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	53 (31)	40	13
富山県 (新任期再掲)	38 (16)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	39 (16)	23	16
石川県 (新任期再掲)	26 (6)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (0)	34 (6)	22	12
福井県【1回目】 (新任期再掲)	51 (13)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	54 (14)	32	22
福井県【2回目】 (新任期再掲)	24 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (6)	16	8
福井県【3回目】 (新任期再掲)	16 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	18 (2)	8	10
福井県【4回目】 (新任期再掲)	24 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (7)	13	11
愛知県 (新任期再掲)	42 (2)	7 (3)	2 (1)	3 (0)	6 (0)	60 (6)	51	9
三重県 (新任期再掲)	31 (11)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	36 (12)	20	16
和歌山県 (新任期再掲)	32 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	37 (9)	23	14
福岡県 (新任期再掲)	43 (14)	4 (1)	8 (4)	0 (0)	5 (2)	60 (21)	45	15
佐賀県 (新任期再掲)	72 (35)	0 (0)	6 (4)	0 (0)	1 (0)	79 (39)	61	18
大分県 (新任期再掲)	78 (44)	11 (10)	5 (4)	4 (3)	1 (0)	99 (61)	86	13
鹿児島県 (新任期再掲)	35 (10)	3 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	39 (11)	30	9
合計 (新任期再掲の合計)	735 (280)	34 (16)	50 (26)	14 (5)	36 (3)	869 (330)	599	270
割合(%) (新任期再掲の割合)	85% (85%)	4% (5%)	6% (8%)	2% (2%)	4% (1%)	100% (100%)		

(2) 企画・実施内容

①周知の工夫

県協会	内容
秋田県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員（保健師職能）が所属する医療機関、福祉施設への個別通知 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の各福祉環境部（保健所）、各市町村、各地域包括支援センターへの文書送付 ・「保健師のひろば」（新任期保健師の交流の場）での周知 ・「保健師職能集会交流会」での周知 ・共催の3福祉環境部（保健所）から対象者がいる市町村等へのよびかけ
山形県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師職能委員の各所属に対するメーリングリストによる参加の呼びかけを実施 ・平成28年度教育計画に掲載し、ホームページ等による周知 など <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県庁主幹課（健康づくりプロジェクト推進室）から各自治体への周知を依頼 ・地域保健人材育成検討会で研修企画を周知 ・山形県保健師長会からの周知を依頼
茨城県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護協会から個人会員及び会員施設（行政、産業、健診、医療、地域包括支援センターその他保健師の所属する勤務先）に開催案内を送付 ・県人材育成担当者から保健所と市町村の統括保健師宛にメールで開催案内 ・保健師職能委員による研修会等での周知 ・看護協会HPにて周知 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護協会から会員外の市町村、地域包括支援センター等に開催案内を送付 ・産業、健診領域の保健師に対して、看護協会から保険者協議会会員に開催案内を送付 ・県人材育成担当者から保健所と市町村の統括保健師宛にメールで開催案内 ・保健師職能委員による研修会等での周知 ・看護協会HPにて周知
栃木県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる会員の所属組織（行政・産業・医療機関・福祉施設等）には研修案内を郵送 ・保健師職能だよりを研修の受講者募集時期に合わせて作成、配布し、前年度の実施状況等についての情報提供と今年度の募集についての周知を図った ・保健指導ミーティングのPRチラシを作成し、会員あてにメールにて送信するとともに、関係者への情報提供についても依頼した <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の保健師の任意団体（県職員保健師会等）への情報提供 ・会員のいない組織にも保健指導ミーティングのPR用チラシをメールにて送信

県協会	内容
埼玉県	<p>【会員・非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連施設、保健所 17 施設、保健センター92 施設、地域包括支援センター256 施設への案内通知・チラシを郵送 ・県協会ホームページに研修案内を掲載
長野県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県、市町村長、病院長宛への一般応募通知 ・新人保健師研修会受講者への個別通知 ・ホームページ、広報「看護ながの」での周知 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県、市町村長、病院長宛への一般応募通知
富山県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員名簿に基づく周知 ・会報誌、県協会ホームページ等による周知 ・市町村、県保健師の協議会等を通じて、参加を広く呼びかける（文書、メール等） ・福祉、産業、医療、教育等の分野で働く保健師にも呼びかける <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修等の機会に周知
石川県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールによる周知 ・職場委員からの周知 <p>【非会員】 職能委員及び職場委員からの周知</p>
福井県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県看護協会から文書にて会員へのご案内 ・県看護協会ホームページによる周知 ・県保健師長会による会員への周知 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町保健師連絡協議会によるネットワークによる県内市町村保健師への周知 ・県保健師長会より周知 ・産業保健師への周知
愛知県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県看護協会会員個人への案内送付 ・職能委員からのPR <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体への案内通知 ・愛知産業保健総合支援センターにて「保健指導ミーティング」案内の配布依頼 ・日本産業衛生学会東海地方会 看護部会研修会にて「保健指導ミーティング」案内の配布

県協会	内容
三重県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県協会ホームページによる周知を行った ・ 文書送付による周知を行った ・ 様々な分野（県・市町・地域包括支援センター・医療・教育）から職能委員が選出されており、各職能委員を通して周知を行った <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国保健師長三重県支部、県保健師協議会、市町保健師協議会と共催することで、各団体と連携して県内に幅広く周知を行った ・ 参加申込のない保健所へは、保健師業務担当者を通じて再度参加を勧めた
和歌山県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職能集会で、本事業を紹介 ・ 会員や施設代表者等に個別通知 ・ 職能だよりに掲載 ・ 県看護主管課からメールによる周知 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員・非会員を問わず施設代表者に通知 ・ 現職能委員により参加を促進 ・ 県看護主管課からメールによる周知
福岡県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡県看護協会ホームページ ・ 福岡県内の行政、企業、その他関連分野へのチラシの配布 ・ 職能委員会からの声掛けにより、周知 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡県看護協会ホームページ ・ 福岡県内の行政、企業、その他関連分野へのチラシの配布 ・ 職能委員会からの声掛けにより、周知
佐賀県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県医務課が主催する現任教育の一環としても実施したため、県医務課と看護協会の双方から開催通知を送付 ・ 会員名簿に基づき開催通知を送付 ・ 佐賀県看護協会ホームページに掲載 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県医務課が主催する現任教育の一環としても実施したため、非会員の市町に県医務課と看護協会の双方から開催通知を送付 ・ 職能委員長による各統括保健師への周知と参加勧奨 ・ 職能委員による周知と参加勧奨 ・ 把握している非会員の保健師に開催通知を送付

県協会	内容
大分県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護協会から会員・非会員に関わらず、保健師のいる施設全てに開催通知を送付し、周知した ・大分県看護協会ホームページ及び大分県看護協会研修手帳に掲載 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護協会から会員・非会員に関わらず、保健師のいる施設全てに開催通知を送付し周知、その後、各職能委員が新任期の保健師個々に事業の説明と事前アンケートの依頼、当日の出席勧奨を行った ・大分県看護協会ホームページの研修計画に記載
鹿児島県	<p>【会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県協会から文書にて通知 ・県協会ホームページによる周知 ・県保健師長会より周知 <p>【非会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県保健医療福祉課看護係（保健師人材育成担当部署）に依頼し、県内全市町村に文書にて通知 ・県保健師長会より周知 ・平成 26 年度 27 年度の研修会参加者を対象としたアンケート評価において「もう一人参加者がいれば（事例検討会を）実践しやすい」「各地区に伝わるといい」等事例検討会の広がりについての課題となる意見も聞かれたことから、本年度は研修会案内文に“職場から 2 名以上の参加”を推奨する文言を加えた。結果的に職場全体での周知・参加（声を掛け合っでの参加）につながったことから、研修会以降の自組織での継続的な事例検討会の実施を念頭に入れた周知方法になったと考える。 ・申込期間中、適宜、申込状況を委員間で確認し「参加が少ない地域（大きくは保健所圏域）」の把握に努めた。協議の上、当該地域へは既存のネットワーク等を活用して再度周知を行い、結果的に参加に結びつけることができた。

②事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
秋田県	2回	職能委員、共催の保健所職員、実践事例発表者、ファシリテータ、運営関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・概要説明 ・各管内の新任保健師の育成状況について（情報交換） ・スケジュール、役割分担、グループ編成、会場設営、当日の資料等の検討 ・ファシリテータの役割等について確認 ・事例紹介・共有
山形県	3回	職能委員	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム、スケジュール、実践事例報告の検討 ・グループワークの進め方、テーマ、研修会の啓発方法の検討 ・進行、役割分担、アンケートについて検討
茨城県	4回	職能委員、講師、ファシリテータ	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実施内容等の共有 ・今年度の事業計画について確認 ・中堅期を対象に開催する保健指導ミーティングとの連動 ・目的、目標、日程及び内容等について確認、検討 ・検討事例の検討 ・ファシリテータ等との事前打ち合わせについて検討 ・タイムスケジュール及び資料の確認 ・ファシリテータの役割確認、グループワークの進め方の確認、研修
栃木県	4回	職能委員、講師、コーディネータ	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の実施状況の振り返りと今年度の企画内容、スケジュールの確認 ・研修案内の方法について検討 ・実践力UP事例検討会の進め方及びファシリテータの役割についてコーディネータの講義及び演習を実施 ・当日の進め方及び講義内容等の確認 ・提供事例の確認、参加申込み状況について共有 ・会場借用の際の留意点の確認 ・当日の運営方法、役割分担についての確認
埼玉県	1回	職能委員、ファシリテータ	<ul style="list-style-type: none"> ・研修プログラムの説明と役割分担の検討・確認
長野県	3回	職能委員、事例発表者、コーディネータ、ファシリテータ、事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・日程、コーディネータ、ファシリテータ、講師の検討 ・模擬事例検討会の実施（ファシリテート、板書方法、アセスメントの分類を学ぶ） ・事例内容の確認 ・事例提供者、ファシリテータ、板書係打合せ

県協会	回数	参加者	内容
富山県	3回 (事後1回含む)	職能委員	<ul style="list-style-type: none"> ・企画、役割分担、周知方法の検討 ・事例提出者、ファシリテータの選出 ・事例検討のすすめ方の確認 (DVD 視聴) ・保健指導ミーティングの評価 ・次年度の検討
石川県	1回	職能委員、コーディネータ	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例発表者の選定 ・事例検討の事例提供者及び事例の選定
福井県	6回	職能委員、実践事例発表者、ファシリテータ、コーディネータ	<ul style="list-style-type: none"> ・予算執行について ・タイムスケジュールの検討 ・広報・周知・参加者の概要の共有 ・配布資料、役割分担、進行、ファシリテータの役割の確認 ・市町連絡協議会との共催のための打ち合わせ ・地方ブロック会 (北部・中部・南部) の開催について ・全体会の評価
愛知県	1回	職能委員、講師、実践事例発表者	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表内容の確認 ・地域取組み報告の内容の確認 ・当日の流れ、役割分担の確認
三重県	3回	職能委員、講師、ファシリテータ、実践事例発表者	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画 (案)、共催団体の確認 ・プログラム、案内チラシ、アンケート、周知方法の検討 ・事業概要の説明 ・事例検討会デモンストレーションの実施 ・事例検討会の進め方、役割の確認、検討事例の共有 ・当日のスケジュール確認 ・事例提供者、ファシリテータの打合せ
和歌山県	2回	職能委員、コーディネータ、県行政関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容、ミーティング開催日、実行委員会開催日、プログラム、講師、事例提供者、案内文内容、周知の検討 ・目的、目標の設定について ・「実践力UP事例検討会の方法を取り入れて」事例検討会を実施 ・留意点、タイムスケジュール、役割分担、準備物品について確認、アンケート作成
福岡県	3回	職能委員、講師、実践事例発表者、実践事例発表者、コーディネータ	<ul style="list-style-type: none"> ・実施経験者を講師に招いての事前研修 (事例検討) ・事例提供の準備、方法について ・事例提供者、ファシリテータ、コーディネータとの打合せ ・タイムスケジュールの確認など

県協会	回数	参加者	内容
佐賀県	3回	職能委員、ファシリテータ、 看護協会職員	<ul style="list-style-type: none"> ・企画及び実施要領の検討 ・講師の決定、事例提供者、ファシリテータの依頼について ・開催案内の送付について ・当日手順の検討、必要物品の確認、役割分担の決定 ・アンケートの内容確認 ・事例検討の進め方、ファシリテータの役割等について ・事例提供者との打ち合わせについて
大分県	3回	職能委員、コーディネータ、看護協会職員	<ul style="list-style-type: none"> ・実施要綱、事業目的、目標、発表者、講師、コーディネータの役割の確認 ・事前アンケートについて協議 ・当日プログラムのねらいと内容、役割分担について協議 ・事前アンケートの集計結果の報告
鹿児島県	8回 (事後1回含む)	職能委員、コーディネータ、 ファシリテータ	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実施内容について説明 ・予算計画について ・今年度の事業内容について検討 ・開催時期、開催場所、内容について検討 ・コーディネータの依頼等について ・事前打ち合わせの内容、当日の進め方、スケジュール、必要物品、周知、役割分担について検討 ・参加状況の確認 ・アンケート内容について検討 ・事例提供者について ・事例検討会のデモンストレーションを実施 ・実施内容について参加者アンケートを基に反省、評価を検討 ・今後の事例検討会実践普及のための取り組みについて

③保健指導ミーティングのプログラム内容

県協会	講演・講義	事例数	グループ討議 (構成)	グループ討議 (テーマ)
秋田県	1名 ・新任期保健師への メッセージ	2事例	13人 ×2グループ 1回	・ひきこもり状態にある18歳男性（無職） への支援 ・長期間に渡り在宅で難病患者を介護する 高齢両親への支援
山形県	1名 ・保健師のための行 政学入門	3事例	5～6人 ×6グループ 1回	・実践事例報告を受けて検討 ・地域の健康課題の解決への取組みについて ・他職種との連携と保健師の役割と責任につ いて
茨城県	2名 ・事例検討会の必要 性・実践力UP事例 検討会とは ・個別面接について	4事例	8～9人 ×4グループ 1回	・介護予防、特定保健指導、母子保健、精神 保健の4つのグループで出された事例につ いて事例検討
栃木県	1名 ・保健指導のスキル アップを図るために	5事例	6～7人 ×5グループ 1回	・自らの保健指導を振り返りながら、検討事 例の情報整理、アセスメント、具体的な支 援策について検討する一連のプロセスを学 ぶ
埼玉県 【1回目】	1名 ・面接の基礎	1事例 (模擬)	4～5人 ×4グループ 1回	・面接の基礎「面接技術を学ぶ」 ・事例検討会「情報の整理・アセスメントが できる」
埼玉県 【2回目】	2名 ・スキルアップにつ ながら事例検討会 ・自分自身のキャリ アを考える	1事例 (模擬)	5～6人 ×3グループ 1回	・模擬事例を基に、情報の整理、アセスメン トをして支援計画を立てる
長野県	1名 ・事例検討の意義と 方法	3事例	17～18人 ×4グループ 1回	・育児支援者が要介護状態になり、育児と介 護の両立が予測されるケース ・成人になってから ADHD と診断がついた青 年と家族支援 ・がん就労者への支援の難しさを感じた事例
富山県	2名 ・実践力アップのた めの事例検討会の必 要性とその方法	4事例	10人 ×4グループ 1回	・事例検討「アセスメントから実施計画ま で」

県協会	講演・講義	事例数	グループ討議 (構成)	グループ討議 (テーマ)
石川県	2名 ・効果的な事例検討会とは	3事例	8～9人 ×3グループ 1回	<ul style="list-style-type: none"> ・成人保健事例「精神疾患を持ちながら難病を発症したことで生活のしづらさや不安を訴えるケースへの支援」 ・介護保険事例「サービスを拒否する認知症高齢者世帯への見守り支援体制をどのように構築すればよいか」 ・母子保健事例「育児困難が予想される家族への支援」
福井県 【1回目】	(全体会) 1名 ・「実践力UP事例検討会」とは	7事例	8～9人 ×7グループ 1回	事例提供者による「今回、この事例を事例検討に提出しようと思った理由」に基づいて対象者の理解に向けて、事実と想像・印象を整理し、アセスメントし具体的支援を長期目標・短期目標それぞれについて話し合う
福井県 【2回目】	(地方ブロック会 南部) 1名 ・「実践力UP事例検討会」とは	3事例	8～9人 ×3グループ 1回	事例提供者による「今回、この事例を事例検討に提出しようと思った理由」に基づいて対象者の理解に向けて、事実と想像・印象を整理し、アセスメントし具体的支援を長期目標・短期目標それぞれについて話し合う
福井県 【3回目】	(地方ブロック会 北部) 1名 ・「実践力UP事例検討会」とは	2事例	8～9人 ×2グループ 1回	事例提供者による「今回、この事例を事例検討に提出しようと思った理由」に基づいて対象者の理解に向けて、事実と想像・印象を整理し、アセスメントし具体的支援を長期目標・短期目標それぞれについて話し合う
福井県 【4回目】	(地方ブロック会 中部) 1名 ・「実践力UP事例検討会」とは	3事例	8～9人 ×3グループ 1回	事例提供者による「今回、この事例を事例検討に提出しようと思った理由」に基づいて対象者の理解に向けて、事実と想像・印象を整理し、アセスメントし具体的支援を長期目標・短期目標それぞれについて話し合う
愛知県	2名 ・「アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き」に基づいた事例検討のノウハウ ・グループワークを受けての助言	1事例	7～8人 ×7グループ 1回	事例を基に、「保健師の連携を深めるために、地域・職域それぞれの立場に対してどのようなアプローチが必要か？」について対応策を話し合う

県協会	講演・講義	事例数	グループ討議 (構成)	グループ討議 (テーマ)
三重県	1名 ・事例検討会の意義と進め方	3事例	12人 ×3グループ 1回	・参加して、学んだこと、気づいたこと ・現場で実践するにあたっての課題
和歌山県	2名 ・米原市における生活習慣病予防の取り組みとその背景 ・事例検討の進め方	2事例	12人～13人 ×2グループ 1回	・事例検討(実践力UP事例検討会) 生活習慣病予防の事例、母子保健の事例 ・事例検討実施後の振り返り 事例検討を通じての気づき 今後の各職場における事例検討の実施について
福岡県	1名 ・実践力UP事例検討会のすすめ方	5事例	約10人 ×5グループ 1回	・看護協会の推進する事例検討会のやり方で事例検討を各グループで行う
佐賀県	1名 ・保健指導や連携のためのアサーションスキル	6事例	12人～13人 ×6グループ 1回	・母子保健「発達面が気になる母子への支援」 ・結核「自己中断歴のある結核患者への服薬支援」 ・母子・生活習慣病「高血圧、高血糖等自己管理が必要な疾患を抱えながら、初めての育児に取り組んでいる母親への支援」 ・結核・生活習慣病「結核、高血圧で治療中の男性への支援」 ・生活習慣病「特定健診で毎年積極的支援になる男性の生活改善支援」 ・母子保健・精神保健「精神疾患のある母親の子育て支援」
大分県	1名 ・保健師が行う保健指導～わたしらしく健やかに	2事例	8～11人 ×11グループ 2回	【グループ討議1回目】 新任期：実践報告の感想、自分の行った保健指導が対象者にどんな意味があったか、保健指導する上で意識していること 指導者：保健指導の振り返りをどう行っているか 統括：新人指導や記録を読んだの助言ポイント 【グループ討議2回目】 今後それぞれの立場で取り組むこと

県協会	講演・講義	事例数	グループ討議 (構成)	グループ討議 (テーマ)
鹿児島県	なし	4事例	8～9人 ×4グループ 1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患を持つ母親への支援 ・医療保護入院となった本人と、行政に対する期待が大きい（強く要望する）母親 ・精神疾患を抱える母とその家族への支援 ・入院時に近隣住民とトラブルのあった精神障害者の地域での支援

④実践事例発表で取り上げた事例

生活習慣病予防をベースに、個別性の高い複雑・支援困難な事例について取り上げた。

県協会	内容
秋田県	精神保健 他1事例
山形県	高島町における母子保健の取組みについて 他2事例
茨城県	介護保険を更新申請するが、サービスを拒否する夫婦への働きかけ 他3事例
栃木県	虐待をしてしまう母親への支援 他4事例
長野県	育児支援者が要介護状態となり、育児と介護の両立が予測される事例 他2事例
富山県	先天性の病気で児の外見に不安を持つ母 他3事例
石川県	成人保健分野における事例検討の実際 他2事例
福井県 【1回目】	(全体会) 特定健診にて受診勧奨値であるのに医療機関への受診を拒む住民 他6事例
福井県 【2回目】	(地方ブロック会 南部) 4か月から人工呼吸器を装着している児が自宅で療養している家族 他2事例
福井県 【3回目】	(地方ブロック会 北部) 長年、高血圧であるのに内服を拒否している高齢者 他1事例
福井県 【4回目】	(地方ブロック会 中部) 学習障害があるという母の育児支援について 他2事例
愛知県	仕事に家事に手がいっぱい、でも自分の健康も気になるワーキングマザー
三重県	精神障害の息子(A)からの虐待により心神喪失状態の父からの相談 他2事例
和歌山県	独居の74歳高齢者で脳出血の再発予防のための生活習慣を改善させたい事例 他1事例
福岡県	動脈硬化性疾患のリスクが重複している事例 他4事例
佐賀県	発達面が気になる母子への支援 他4事例
大分県	医療機関への受診行動に繋がられないケースへの関わり 他1事例

(3) 評価

実施 16 県の保健師職能委員長に、所定の評価項目・評価基準（4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない）を提示し、評価を依頼した。結果は以下のとおり。

<実施評価>

「プログラム内容は参加者に適したものだっ」（平均 3.9）と「目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えた」他 3 項目（平均 3.8）については、16 県すべてが『ややそう思う』以上と評価した。

（4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない）

	評価項目								
	① 新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか	② 様々な領域から新任期の保健師を集められたか	③ 数多くの保健師の参加が得られたか	④ 目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	⑤ 目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	⑥ グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	⑦ ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	⑧ プログラム内容は参加者に適したものであったか（参加者の反応等からの評価）	⑨ プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか
秋田県	4	3	4	4	4	3	4	4	4
山形県	1	2	2	3	3	4	3	4	4
茨城県	4	4	3	4	4	4	4	4	4
栃木県	3	3	4	4	4	4	4	4	4
埼玉県	1	3	3	1	4	4	4	4	4
長野県	3	4	4	4	4	3	4	3	3
富山県	4	2	3	4	4	4	4	4	4
石川県	4	3	3	4	4	4	4	4	4
福井県	4	2	4	4	4	4	4	4	3
愛知県	2	2	4	4	4	4	4	4	3
三重県	2	3	2	4	4	4	3	4	4
和歌山県	3	3	3	4	4	4	4	4	4
福岡県	3	4	4	3	3	4	3	4	4
佐賀県	4	4	4	3	3	3	4	4	4
大分県	4	4	4	4	3	4	4	4	3
鹿児島県	4	4	3	3	4	4	3	3	4
平均	3.1	3.1	3.4	3.6	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8

※①：山形県と埼玉県は新任期保健師の実践事例発表を行わなかったため評価が「1」となっている。

<結果評価>

9項目中7項目について16県すべてが、『ややそう思う』以上と評価した。2項目で各1県『あまりそう思わない』との評価があった。

「参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となった」「参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになった」の2項目が（平均3.8）、次いで「参加者の満足を得ることができた」が（平均3.7）であった。

(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

	評価項目								
	① 新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	② 新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	③ 参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	④ 参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	⑤ 参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	⑥ 参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	⑦ 指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	⑧ 参加者の満足を得ることができたか	⑨ 県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか
秋田県	4	4	3	3	4	4	4	4	3
山形県	4	3	4	3	3	3	3	3	4
茨城県	4	4	3	3	4	4	3	3	4
栃木県	4	4	4	3	4	4	4	4	4
埼玉県	4	4	3	2	4	4	4	4	2
長野県	3	3	3	3	4	4	3	3	3
富山県	4	4	4	3	3	4	4	4	4
石川県	4	4	3	4	4	4	3	4	3
福井県	4	4	4	3	4	4	3	4	4
愛知県	3	3	4	4	4	4	4	4	4
三重県	4	3	4	3	4	3	4	3	4
和歌山県	4	4	3	3	4	4	3	4	4
福岡県	3	3	3	3	3	3	2	4	3
佐賀県	3	3	3	3	4	4	3	4	4
大分県	3	3	3	3	4	4	4	3	4
鹿児島県	3	3	4	4	3	3	4	4	4
平均	3.6	3.5	3.4	3.1	3.8	3.8	3.4	3.7	3.6

<企画評価>

「目的・目標について関係者間で事前共有できていた」「事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だった」（平均 3.9）について、14 県が『非常にそう思う』と評価した。

(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

	評価項目								
	①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか
秋田県	4	4	4	4	4	4	4	3	3
山形県	3	3	3	3	4	4	4	4	4
茨城県	4	4	4	4	4	4	4	4	4
栃木県	4	4	3	4	4	4	4	4	4
埼玉県	4	3	3	2	4	4	4	4	2
長野県	3	3	4	4	3	4	4	3	3
富山県	4	4	2	3	4	4	4	4	4
石川県	4	4	3	4	4	4	4	3	3
福井県	3	4	4	4	4	4	4	4	4
愛知県	2	4	4	4	3	4	4	4	4
三重県	4	3	4	4	4	4	4	4	4
和歌山県	3	4	4	4	4	4	4	4	4
福岡県	3	3	4	4	3	3	3	3	3
佐賀県	4	4	3	3	4	4	4	4	4
大分県	4	4	4	4	4	4	3	4	4
鹿児島県	4	3	4	3	3	3	4	4	4
平均	3.5	3.6	3.5	3.6	3.7	3.9	3.9	3.8	3.7

(4) 16 県から出された考察とまとめ(抜粋)

秋田県
<ul style="list-style-type: none">・研修会場を「県北」としたことにより、いままで参加の少なかった県北地区の市町村保健師の参加があり、保健指導力アップの動機付けになった。・秋田県後援、各保健所共催の連携関係をもち実施し、県北地区に限らず県南地区からの参加もあった。関係機関と連携し事業を実施することは人材育成するうえで、重要である。・新任期の保健師及びプリセプターを対象とした「保健指導ミーティング（事例検討会）」はその保健指導力を磨いていく上で有効であるが、1回のみその方法を学んだだけではなく、各職場において、今後も活かし、継続して続けていくことがより効果的であると考え。事例への関わりや事例の評価をし、本当に実践力アップにつながっているのか、継続し関わっている機関・人を見極め、実践力をつけられるようにつなげていきたい。
山形県
<ul style="list-style-type: none">・実践事例報告では事例を優先に依頼したことから発表自治体に新任期保健師がいなかったため新任期保健師からの実践事例報告を入れることができなかった。しかし、行政として法律根拠、地域課題をとらえ、地域で多職種との連携のもと実践している取り組みの報告であり、内容は充実していた。・新任期のみならず、中堅期にも継続して企画してほしいとの声もあり、有意義な研修テーマであった。・講演により知識を習得し、実践事例報告により、他自治体の取り組みの情報を得て、グループワークにより、新しい知識と他の取り組みの情報を得たうえで、自身の自治体の取り組みや行政の中での保健師の役割と責任を認知する機会となった。本企画の当所の目的は概ね達成された。・助産師職能委員との連携を目的に母子保健分野への参加により子育て期における包括支援について意見交換ができ、今後の連携の発展が期待できる。
茨城県
<ul style="list-style-type: none">・事例検討を生活習慣病、精神、介護予防、母子保健の4項目を設定したため、様々な分野の保健師の参加が得られた。他分野の保健師との交流ができ、自分の担当以外の分野の事例について考えることができる良き機会となった。・今後、職場で事例検討ができるかという問いには、96%ができると回答があった。・支援ありきのアセスメントではなく、当事者が何を求めているのかを考えての支援が大切だと認識できる、アセスメントのスキルアップにつながった。・県内で1カ所開催しているが、地域単位で開催することや開催曜日を工夫することで事例検討に取り組む風土を構築していく。
栃木県
<ul style="list-style-type: none">・総受講者数は昨年より増加した。昨年実施しなかったメール等による受講案内を実施したことが有効だったと思われる。行政機関への周知の機会が多いが、その他の領域への周知ルートの開発が今後の課題である。・グループ編成を工夫する等により、いろいろな領域で働く保健師との交流が可能なように配慮した。その結果、ネットワークの第1段階としての相互理解は深められたと思われる。・県内でこの実践力UP事例検討会を現任教育の一環として実施する自治体が少しずつではあるが増加してきているので、活用状況や現場の声を把握し、次年度の企画に生かしていきたい。

埼玉県
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は意欲的な新任期保健師が多く、研修目的も達成できたといえる。 ・研修準備では、ファシリテータを依頼し、打ち合わせをするための時間が十分に取れていないが、管理期クラスの方に多く引き受けて頂いたので、スムーズに進行できた。 ・新任期を中心に企画してきたが、今後は中堅期も多く参加してもらえるよう工夫を重ねていきたい。
長野県
<ul style="list-style-type: none"> ・「自組織でもこの方法で事例検討をやりたい」という意見もあり、学ぶ意欲が深まった。階層や職域を超えてのネットワークまでは、1回の検討会では、難しい。 ・長野県では、系統的な保健師人材育成において、県協会は、新人・中堅期を担っている。新人では、コミュニケーションをどうとるかに重点をおいているため、アセスメント力を深める研修が、中堅期までに必要とされる。そこで、新人研修を修了した翌年から3年間、保健指導ミーティングの対象とした。 ・アセスメントの言語化ができない新人保健師が多く、この部分に時間をかけることが重要に思われた。参加者希望も多いことから、定期的に各地域でできるような支援方法を考えていく必要がある。 ・地域ごとに実施することにより、今回難しかったネットワークの強化につながるように感じる。
富山県
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、自分の保健指導の課題に気づくことができた。今日のスキルアップへの動機付けができたと答える者が多かった。 ・開催日は忙しい期間ではあるが、早期から計画を立て、関係者への周知も行ったので、時期としては適切だった。しかし、産業、医療、教育分野からの参加が少なく、今後はアプローチ方法の検討が必要。 ・昨年度に引き続き2度目の実施であった。昨年度から所属や厚生センター管内で実施している機関もあり、理解度には差が見られた。しかし、全体に、参加者からは、個別的ケアのアセスメント能力の向上につながり、保健指導のスキルアップにつながったと回答しており、一定の成果があったと思う。新任期の保健師だけでなく、指導者の力量形成にもつながった。 ・次回の継続を望む声もあり、産業や医療などの分野を広げることを検討していきたい。
石川県
<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討では実践力UP事例検討会の方式を用いたことで、年齢や日頃の担当業務や分野を問わず、意見を整理していく過程を体験でき、参加者の満足度が高かった。 ・この方式による事例検討に初めて参加するものが多く、事例検討実施前に講義を入れ、イメージできたのもよかった。 ・新任期保健師が自らの課題について考える機会となったとともに、指導保健師も具体的な事例検討を用いた指導方法についてのイメージができたと考えられ、今後の各自のスキルアップにつながったと考える。 ・実践力UP事例検討会の方法を周知し、現場で広く取り入れていくことができれば、保健師のスキルアップについては地域住民へのサービス向上につながると考えられ、今後も継続してこのような研修会を実施できたらよいと考える。

福井県

- ・新任保健師の事例提供があり、これまでの活動をまとめて報告し、多角的視点からディスカッションをする中で広い視野に立ち対象者の理解を行うことの重要性に気づくことができていた。
- ・中央での全体会と近くの地方ブロック会を開催した。休日および平日の開催等それぞれの実情に応じて開催場所や日程を調整し参加しやすい環境づくりに配慮を行った。
- ・県協会が市町連絡協議会と共催で事業開催することによって、お互いの活動を知り、それぞれの研修会にこれまで未参加の方が参加する機会となった。
- ・周知については、産業保健分野も含め関係機関に広く周知を行った。産業保健分野の参加は少なかったが、本研修会実施後に独自で同様の研修会を企画したとの意向も聞かれたことから、多様な分野への波及効果はあったと考える。

愛知県

- ・在宅保健師の会、加入していない自治体の保健師の参加も複数あり、今回で保健師同士の横のつながりが図れた。
- ・産業、県、市町村、学校、包括支援センター等など様々な機関の多くの看護協会に入会していない保健師の参加があった。
- ・年数回事例検討会を開催してほしいと希望が上がっている。ブロックごとの開催を検討してもいいのではないかと。看護協会だけでなく、県型保健所の主催研修会でも活用してほしい。
- ・各グループのファシリテーターを県所属の保健師に、事例提供を産業保健師にそれぞれ依頼したが、ファシリテーターの力量や事例提供の方法によりグループ毎に進行内容や事例検討の理解に差が出ており、研修の質を保つことの困難さを感じた。

三重県

- ・職能委員からは、デモンストレーション抜きで実施する方向でどうかとの意見が上がったが、参加者アンケートではデモンストレーションがあつて分かりやすかったとの意見が上がっていた。時間的に参加しやすい様、半日で実施可能か簡単な方法を探りたい。
- ・昨年度より参加者数が少なかったが、保健所独自で講師を呼んで研修会を開催した保健所（看護協会の研修に出られない人もいるため）や、多職種と既に実施している市もあり、3年間の取組成果を感じる場所である。
- ・保健指導ミーティングでの整理方法は、記録作成等にも応用できるとの意見が聞かれた。大事な視点であり、時間がないから（事例検討）出来ないと言うのではなく、考え方の整理を各職場で取り入れて頂けるような働きかけが大事であるとする。

和歌山県

- ・保健師がよく関わる生活習慣病の事例を中心に事例検討会を実施したので、意見が出やすく、参加者一人ひとりが発言しやすかった。
- ・事例検討のみではなく、グループで振り返りをするにより、事例検討の意義をより深めることができた。事例検討をすることで、自分が関わった事例であるかのような擬似体験ができ、今後の事例対応に活かせると、参加者からは好評であった。
- ・実行委員会のメンバーは、職能委員に行政、教育の各分野のメンバーを加えて、多くの分野から参加できるように配慮した。企画の段階から十分検討し、意思統一を図りながら実施体制を整えたので、当日マンパワーが不足することもなく、また、事例提供者も今回の意図を充分理解してもらっていたのでスムーズに運営できた。

福岡県

- ・初めての保健指導ミーティングの開催であったため、福岡県看護協会職能委員間でも目的、目標、特に実施の方法を共有することが難しかった。今後、今回の実施方法や反省点を含め、次回につなげたいと考える。
- ・事業の目的については、福岡県の新任期の問題をもっと把握したうえで設定したかった。一般的な目的、目標になったと思う。また、福岡県の新任期がどのような研修を望んでいるのか事前に把握したかった。今後、2点を把握したうえで、福岡県独自の保健指導ミーティングを計画したいと考えている。
- ・日本看護協会のホームページにある、事例検討会のやり方や、ファシリテータの手引き、DVDなど非常に役に立った。事例検討会の雰囲気などについては、DVDを保健指導ミーティングの参加者にも見ていただきました。そうすると実際にやる事例検討会のやり方が参加者にもわかりやすく良かった。

佐賀県

- ・事例検討会、振り返りのグループワークではほぼ全員が発言できており、保健指導の楽しさ、やりがいを感じた者も多く、再度実施して欲しいとの意見があった。
- ・保健師活動において県（保健福祉事務所等）と市町の役割分担により、日常業務で関わる事例が偏ってきている。特に新任期では他者の事例の検討をすることで、自己のアセスメント力を身につけと共に、事例をとおしてお互いの業務を理解しあうことができた。
- ・従来の事例検討会は準備に時間を要するため事例提供者の負担が大きかったが、「実践力UP事例検討会」を初めて経験した保健師から「取り組みやすい」と今後も同研修を希望する意見が多く聞かれた。既にここ数年継続して実施している職場も複数あり、県内各所での検討会実施が拡大、継続している。この拡大により保健指導力の向上が期待できる。

大分県

- ・グループミーティングの前に事前に実施した新任期の保健指導アンケートの結果報告や新任者の実践報告が参加者に共通する内容であったため、同じ課題や悩みを持っていることを共感できた。また、指導期の保健師も新任期の思いや課題を認識できた。
- ・プリセプターは、新任期から相談を受けて、日々悩みつつ対応している状況などを、共有し、コーディネータの助言を受け、役割の確認をする機会になっていた。管理期の保健師も、新任期の人材育成のあり方や、組織としてのとりくみ、自分達の役割について考えることができ、今後、定期的に自組織で事例検討を開催するようになりたいという意見もあり、本企画を、新任期・プリセプターそして管理期の保健師を対象に実施することにより組織的实践につながると感じた。

鹿児島県

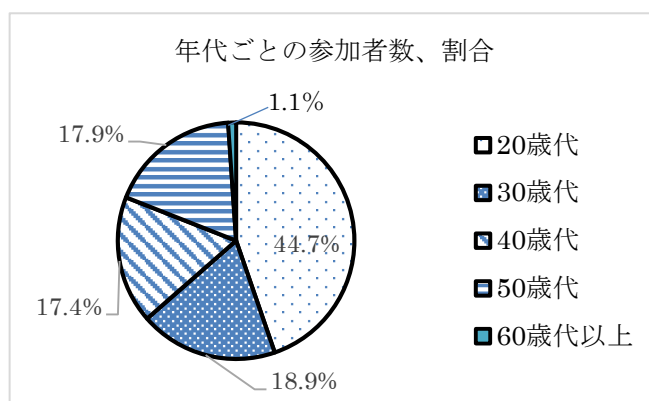
- ・グループワークの際、グループ編成を地域別にすることで、地域ごとのネットワークができるよう工夫した。また、プリセプターとしての振り返りや、仲間作りにもつながった。
- ・ワールドカフェ方式にしたことで、同地域の保健師間のつながりを作りつつ、多数の方と交流が図れた。
- ・昨年度の反省を元に今年度は、『事例検討の手法』についての説明の時間を設け理解に繋がった。
- ・企画段階から、職能委員だけでなく、協力員、県保健師長会、県保健医療福祉課（保健師人材育成担当部署）が参加し、連携して進めた。
- ・今後は、再度集約して検討会を実施し、事例検討会の普及や周知に取り組む予定。

(5) 参加者アンケートの実施結果(県共通項目で実施)

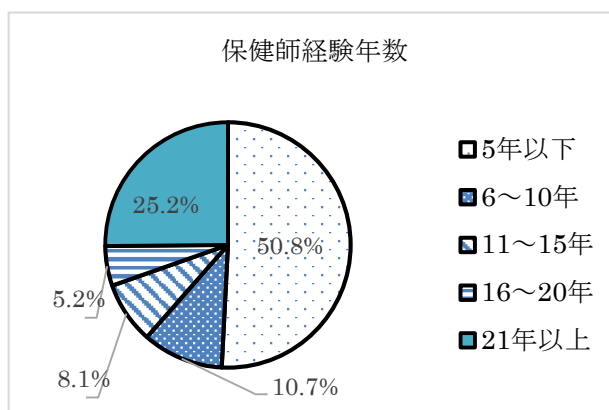
以下にまとめて 16 県分の参加者アンケートの結果を示す。(使用アンケート質問紙は「資料」参照)

① 参加者数および参加者の属性について

- 参加者は運営スタッフ 270 名を含む 869 名であった。
- アンケートは参加者を対象に行い、全回答者数は 637 名であった。
- 女性は 616 名 (96.7%)、男性 21 名 (3.3%) であった。
- 記載のあった 557 名の年代は、20 代 249 名 (44.7%)、30 代 105 名 (18.9%)、40 代 97 名 (17.4%)、50 代 100 名 (17.9%)、60 代以上 6 名 (1.1%) であった。



- 職種は、記載のあった 546 名中保健師が 533 名 (97.6%) で、助産師 7 名 (1.3%)、看護師 5 名 (0.9%)、その他が 1 名 (0.2%) だった。
- 保健師経験年数は、回答者 553 名中、5 年以下が 281 名 (50.8%)、6～10 年が 59 名 (10.7%)、11～15 年が 45 名 (8.1%)、16～20 年が 29 名 (5.2%)、21 年以上が 139 名 (25.2%) であった。



- 保健師の所属は、回答者 627 名中、市町村が 298 名 (47.5%) と最も多く、次いで、都道府県型保健所 121 名 (19.3%)、保健所設置市・特別区 47 名 (7.5%)、都道府県 46 名 (7.3%)、健診センター・労働衛生機関 33 名 (5.3%)、地域包括支援センター 27 名 (4.3%)、病院 22 名 (3.5%)、企業・事業所 16 名 (2.6%)、教育・研究機関、その他が各 7 名、医療保険者、診療所、介護老人保健/福祉施設は各 1 名であった。

②参加者の回答状況

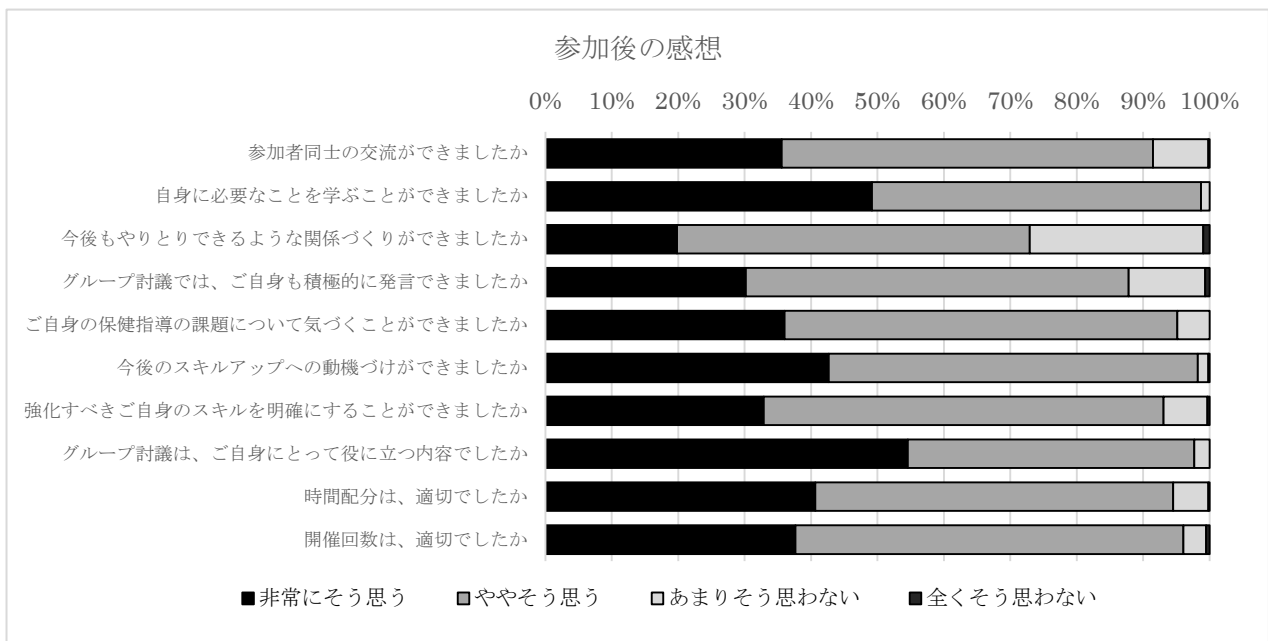
● ミーティングに参加した理由(複数回答)

最も多かったのは「保健指導のスキルアップをしたい」が 369 名 (26.7%)、「興味のあるテーマ」が 311 名 (22.5%) であった。

保健師ミーティングに参加した理由(複数回答)	(人)
保健指導のスキルアップをしたいから	369
興味あるテーマだったから	311
自分の実践を振り返る機会を持ちたかったから	147
日々の保健活動に課題を感じているから	139
同じ職種や違う職種と交流したかったから	117
友人・同僚に誘われたから	87
興味ある講師等だったから	57
参加費が無料だったから	54
毎年継続的に参加しているから	41
いつも看護協会の研修を受けているから	14
その他	48

● ミーティングへの参加後の感想(複数回答)

- ・ 「学ぶことができた」、「今後のスキルアップへの動機づけができた」、「グループ討議が役に立った」については、『非常にそう思う』と『ややそう思う』とした回答を合わせると約 98% であった。
- ・ 参加者が『非常にそう思う』と回答した項目は、「グループ討議が役に立った」が最も多く、「学ぶことができた」、「今後のスキルアップへの動機づけができた」と回答が続いた。



4. 平成 28 年度実施結果のまとめ

1) ミーティングの実施状況

- 今年度の保健指導ミーティングの参加者は 599 名、これに職能委員や運営スタッフ 270 名を含め、総勢 869 名が参加した。
- 行政分野からの参加者が 81.6%と最も多く、他の領域からの参加は産業(7.8%)、地域包括支援センター(4.3%)、医療(3.7%)、他(2.6%)であった。
- 開催回数は、1 回が 14 県、2 回が 1 県、4 回が 1 県であった。
- 開催時間は、1 日開催(午前午後通し)、半日(午前または午後のみ)が各 8 県であった。

2) 企画や周知について

- 16 県とも開催前の事前打合せとして、職能委員を中心にコーディネータ・講師・実践事例発表者を交えた打合せを実施し、プログラム・企画の内容について検討を行った。
- 会員への周知については、県協会ホームページ、会報誌をはじめ、会員名簿やメーリングリスト等を活用した。
- 非会員へは、県の主管課や保健師関連団体への協力依頼、研修で周知を図った。
- 会員・非会員ともに職能委員長や職能委員による直接の呼びかけを行った。

3) 各県でのプログラムの内容

- 16 県すべてで事例検討会が開催された。うち 1 県は模擬事例を用いた事例検討会であった。
- 初めての参加者のために事例検討会の進め方の講義やデモンストレーション後に、事例検討会が実施された。
- 事例は生活習慣病予防をテーマとしたもののほかに、精神保健や母子保健、介護予防をテーマとしたものなどが取り上げられていた。また、生活習慣病予防と母子保健を合わせた複合的なテーマなども見受けられた。

4) ミーティングの評価・効果等について

- 実施評価について、「プログラム内容は参加者に適したものだだった」(平均 3.9)と「目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えた」他 3 項目(平均 3.8)については、16 県すべてが『ややそう思う』以上と評価した。
- 結果評価については、9 項目中 7 項目において 16 県すべてが『ややそう思う』以上と評価した。評価が高かったのは「参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となった」「参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになった」(平均 3.8)の 2 項目と「参加者の満足を得ることができた」(平均 3.7)であった。
- 企画評価について、「目的・目標について関係者間で事前共有できていた」「事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だった」(平均 3.9)について、16 県中 2 県以外は『非常にそう思う』と評価した。一方、「新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だった」(平均 3.5)他 3 項目については、各 1 県が『あまりそう思わない』と評価した。
- 今後も自組織内で定期的に事例検討会を開催したいとの声が多かった。

5. 今後の保健指導ミーティングの開催に向けて

【今年度の実施】

新任期保健師を主な対象とした保健指導ミーティングの企画実施にあたっては、グループワークの円滑な実施とファシリテーターの育成が重要であることを鑑み、平成 25 年度に本会が開発した実践力UP 事例検討会の手法を展開し、開催を推奨してきた。

引き続き、本会が開発した事例検討会の手法「実践力Up 事例検討会」を保健指導ミーティングにとり入れることを推奨し開催。また、各道府県の取り組みを支援するためのツールとして、本会が平成 26 年度に作成した「ファシリテーターの手引き」を活用し、ファシリテーターの育成・効果的なグループワーク実践に取り組んだ。

行政分野にとどまらず、地域包括支援センターをはじめ、産業、健診・医療機関、福祉等の領域で働く保健師への周知に力点を置き、参加者の領域の拡大を図った。

【課題】

各県が工夫し保健指導ミーティングを実施した中で、以下については今後の課題と考えられた。

1. 事例検討会（グループワーク）の進め方

ファシリテーターの力量や事例提供の方法によりグループごとに進行内容や事例検討の理解に差がでるとの意見があった。また、グループワークの時間にゆとりがほしかったとの声もあった。新任期保健師と指導保健師が、事例検討を通して得た学びを発表・意見交換できるよう、引き続き、ファシリテーターの育成や、より効果的なグループワーク実践の検討が必要である。

2. 参加者のネットワーク構築

県の担当課や関係団体との連携等も含め、連絡会や勉強会等での周知など様々な工夫が見られた。また、地域ごとに開催や、グループワークの際にグループ編成を地域別にするなど、地域ごとのネットワーク作りの工夫も見られた。助産師の参加により子育て期における包括支援について意見交換ができ、今後の連携の発展が期待できると回答した県もあった。一方、階層や職域を超えてのネットワーク作りは、1回の検討会では、難しいとの声もあり、継続的な開催が望まれる。

【今後の保健指導ミーティング開催に向けて】

今後の保健指導ミーティングの開催に向けては、以下が必要と考えられる。

- ・ 事例検討会の進め方（実践力Up 事例検討会）についての周知・徹底
- ・ 効果的なグループワークを進めるためのファシリテーターの引き続きの育成
- ・ 参加者拡大のため県の担当課や関係団体とのさらなる連携
- ・ 開催日、開催場所（ブロックごとの開催など）の工夫

6. 保健指導ミーティング 各県実施報告

秋田県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期保健師及び指導保健師（プリセプター）が共に事例検討を行うことにより、保健指導能力の充実と専門職としての実践力の向上を図る。

目標

- ① 新任期保健師は、自らの保健指導を振り返り個別事例のアセスメント能力の向上を図る。
 ② 指導保健師は、新任期保健師の課題をとらえ指導できる。また、人材育成の方法として事例検討を継続して開催できる。
 ③ グループワークを通して、参加者相互のネットワーク形成を目指す。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

平成 28 年度新任期保健師研修事前会議	
【実施日】 H28/7/25 2 時間程度 (10 : 00-12 : 00)	【実施者】 職能委員 : 2 名 講師 : 0 名 実践事例発表者 : 0 名 コーディネータ : 0 名 共催の保健所職員 : 5 名 計 : 7 名
	【実施理由】 保健師職能の参加が少ない県北地域での開催にあたり、県北地域を管轄する 3 か所の保健所との共催で開催する承諾を得ていたため、研修会の目的や概要等を共有し、開催準備を進めるうえでの検討を行うため。
	【内容】 1 研修会の概要説明 2 各管内の新任期保健師の育成状況について（情報交換） 3 開催までのスケジュール、役割分担等の検討 4 質疑応答
平成 28 年度新任期保健師研修事前会議	
【実施日】 H28/9/26 2.5 時間程度 (9 : 30-12 : 00)	【実施者】 職能委員 : 5 名 講師 : 0 名 実践事例発表者 : 3 名 コーディネータ : 0 名 ファシリテータ : 2 名 運営関係者 : 4 名 計 : 14 名
	【実施理由】 研修会当日の円滑な運営を図るため、運営側が事例を共有し事例検討の進め方を確認するとともに、よりよい運営のための検討、確認を行うため。
	【内容】 1 研修会の概要説明（主に、ファシリテーターの役割等について） 2 事例紹介・共有 3 検討事項（グループ編成、会場設営、役割分担等、当日の資料等） 4 質疑応答

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

- ・ 会員（保健師職能）が所属する医療機関、福祉施設への個別通知

(2)非会員を含めた取り組み

- ・ 県内の各福祉環境部（保健所）、各市町村、各地域包括支援センターへの文書送付
- ・ 「保健師のひろば」（新任期保健師の交流の場）での周知
- ・ 「保健師職能集会交流会」での周知
- ・ 共催の3福祉環境部（保健所）から対象者がいる市町村等へのよびかけ

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
9:30	開会 あいさつ	
9:40~10:40	「新任期保健師へのメッセージ」	①、②
10:40~12:10	グループ討議Ⅰ「保健指導力UPのための事例検討」 ①事例発表者：小坂町保健センター 木村麻衣 ②事例発表者：秋田県鷹巣保健所 高橋彩華	①、②、③
12:10~13:10	昼食	
13:10~13:20	名刺交換会	③
13:20~14:20	グループ討議Ⅰ（ステップ6）	①、②、③
14:20~14:45	各グループから発表（1G10分）	①、②、③
14:45~15:15	グループ討議Ⅱ（ステップ7）	①、②、③
15:15~15:25	各グループから発表（1G5分）	①、②、③
15:25~15:40	助言、指導	①、②、③
15:40~15:50	話題提供「保健師のひろば」について	③
15:50~16:00	アンケート記入	
16:00	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域：行政（市町村）	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 2 年	
(3)発表タイトル：精神保健	

グループ討議

構成	13人（新任期8人、プレゼンター3人、ファシリテーター1人、板書係1人）
討議のテーマ	ひきこもり状態にある18歳男性（無職）への支援
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の理解のため、事前に得た情報を板書し進めた。 ・今までの経年的関わりがわかるようにプレゼンターをファシリテーターとし、情報の共有、支援の方向の確認ができる配置とした。 ・参加者の顔をみながら、発言の少ない参加者からの発言も促すようにした。 ・検討状況をみながら、時間配分を変更し十分な時間がとれるようにした。

実践事例発表

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域：行政（保健所）	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 2 年	
(3)発表タイトル：在宅難病 患者支援	

グループ討議

構成	13人（新任期8人、プレゼンター3人、ファシリテーター1人、板書係1人）
討議のテーマ	長期間に渡り在宅で難病患者を介護する高齢両親への支援
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の理解のため、事前に得た情報を板書し進めた。 ・今までの関わりがわかるようにプレゼンターをファシリテーターとし、情報の共有、支援の方向の確認ができる配置とした。 ・参加者の全員が発言できるように促した。（パスあり） ・検討状況をみながら、時間配分を変更し十分な時間がとれるようにした。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	④ 3 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 ③ 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	④ 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	④ 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4 ③ 2 1
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	④ 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・直前に、事例提供者が1名減となり、グループ編成を2Gとした。そのため、1Gあたりの人数が多くなってしまった。 ・新人にとって担当したことのない分野であると参加しようとはするが、発言が少なくなりがちであった。 	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	④ 3 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	④ 3 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 ③ 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 ③ 2 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	④ 3 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	④ 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	④ 3 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	④ 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 ③ 2 1
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・研修会場を「県北」としたことにより、いままで参加の少なかった県北地区の市町村保健師の参加があり、保健指導力アップの動機付けになった。 ・秋田県後援、各保健所共催の連携関係をもち実施し、県北地区に限らず県南地区からの参加もあった。関係機関と連携し事業を実施することは人材育成するうえで、重要である。 	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	④ 3 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	④ 3 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	④ 3 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	④ 3 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	④ 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	④ 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	④ 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 ③ 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 ③ 2 1
考察	
<p>・ 県北3保健所との共催で実施したが、事業実施にあたり、「企画調整」を職能委員が行った。通常業務をもちながらの調整は困難な面が多い。今後は、県協会事務部の事業内容の理解と主体的な事業への関わりを促し、実施することが必要。</p>	

まとめ

新任期の保健師及びプラクティサーを対象とした「保健指導ミーティング（事例検討会）」はその保健指導力を磨いていく上で有効であるが、1回のみその方法を学んだだけではなく、各職場において、今後も活かし、継続して続けていくことがより効果的であると考え。事例への関わりや事例の評価をし、本当に実践力アップにつながっているのか、継続し係わっている機関・人を見極め、実践力をつけられるようにならなければならない。

当県において、3回目の「保健指導ミーティング（事例検討会）」を開催し、ファシリテーターを事例をよく知る新人担当のプラクティサーとしたが「知ってるがゆえに支援の方向を広げられなかった」「客観的に進められなかった」との反省から、次年度から職能委員がファシリテーターをサポートする役割を担い、進めていくことにしたい。

山形県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 県内の保健師の多くは自治体に勤務し、行政職員であり、公衆衛生看護の専門職でもあり、両面性が要求されてくる。そこで、保健師活動にかかわる保健福祉の支援の根拠となる法律を理解し、地域住民の抱える健康課題の解決や地域のケアシステムの構築、健康なまちづくり等の施策の企画、立案等、行政能力の向上を目的とする。
- ② 実践事例報告・グループワークを通して健康課題の抽出や課題解決へのプロセス、他職種との連携により地域ケアシステムの構築のすすめ方を理解する。

目標

- ① 公衆衛生看護活動と根拠となる法律を理解する。
- ② 行政の中の公衆衛生看護の専門職として活動を理解する。
- ③ 地域の健康課題の課題解決としての施策の企画立案をするための行政組織の手順を理解する。
- ④ 保健師の仕事の裁量権を理解する。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/8/19 5時間程度 (10:00-16:00)	【実施者】 職能委員： 7名 講師： 名 実践事例発表者： 名 コーディネータ： 名 <div style="text-align: right;">計：7名</div>
【実施理由】 ①研修プログラムの検討 ②研修スケジュールの検討	
【内容】 ①研修プログラムについて ②研修スケジュールについて ③実践事例報告について	
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/9/24 1時間程度 (12:00-13:00)	【実施者】 職能委員：7名 講師： 名 実践事例発表者： 名 コーディネータ： 名 <div style="text-align: right;">計：7名</div>
【実施理由】 ①グループワークの検討 ②研修会の啓発について検討	
【内容】 ①グループワークの進め方について ②グループワークの検討テーマについて ③研修会の啓発方法を検討	

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/10/14 1時間程度 (10:00-16:00)	【実施者】 職能委員：6名 講師：名 実践事例発表者：名 コーディネータ：名 <div style="text-align: right;">計：6名</div>
	【実施理由】 ①研修会の進め方の検討 ②役割分担の確認
	【内容】 ①進行について ②役割分担について ③実践事例からグループワークの進め方について ④アンケートについて

周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1) 会員に対する取り組み

- ・保健師職能委員の各所属に対するメールリストによる参加の呼びかけを実施
- ・平成28年度教育計画に掲載し、ホームページ等による周知 など

(2) 非会員を含めた取り組み

- ・県庁主幹課（健康づくりプロジェクト推進室）から各自治体への周知を依頼
- ・地域保健人材育成検討会で研修企画を周知
- ・山形県保健師長会からの周知を依頼

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会	
10:00～12:00	【講演】 テーマ：「保健師のための行政学入門」 講 師： 東京医科大学医学部看護学科 准教授 吉岡 京子 氏	①、②、③ ④
12:00～13:00	休憩	
13:00～14:25	【実践事例報告】 コーディネーター：山形大学医学部看護学科 准教授 森鍵祐子 氏 助言者：東京医科大学医学部看護学科地域看護学 准教授 吉岡京子 氏 テーマ「地域住民の抱える健康課題の解決への取組み について」 3事例（1事例20分程度）（候補） ①高畠町における母子保健の取組みについて 高畠町健康推進課 健康増進係長（兼）保健師長 嶋倉 淳子 氏 ②最上町ウエルネス健康ポイント事業の取組みにつ いて 最上町健康福祉課 課長補佐兼保健師長 菅原 美智子 氏 ③庄内地域禁煙サポートプログラム～子育て期～の 取組み 山形県庄内保健所 保健企画課 地域保健主幹 武田 世津 氏	②、③、④
14:25～14:30	休憩	
14:30～15:30	グループワーク 60分 （3分野 ①母子・子育て ②健康づくり ③喫煙・ 受動喫煙予防）	②、③、④

	①実践事例報告を受けて検討します。 ②地域の健康課題の解決への取組みについて ③他職種との連携と保健師の役割と責任について	
15:30~16:00	各グループ発表 20分(3グループ) 講師講評:吉岡准教授 森鍵准教授	②、③、④
16:00	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要	
(1) 事例発表者の所属領域(行政・産業・医療・福祉等):	高畠町健康推進課 健康増進係(行政)
(2) 事例発表者の保健師経験年数:	約32年
(3) 発表タイトル:	①高畠町における母子保健の取組みについて

実践事例発表の概要	
(1) 事例発表者の所属領域(行政・産業・医療・福祉等):	最上町健康福祉課(行政)
(2) 事例発表者の保健師経験年数:	約25年
(3) 発表タイトル:	②最上町ウエルネス健康ポイント事業の取組みについて

実践事例発表の概要	
(1) 事例発表者の所属領域(行政・産業・医療・福祉等):	山形県庄内保健所(行政)
(2) 事例発表者の保健師経験年数:	約35年
(3) 発表タイトル:	③庄内地域禁煙サポートプログラム~子育て期~の取組み

グループ討議

構成	5~6人 × 6グループ
討議のテーマ	(3分野 ①母子・子育て ②健康づくり ③喫煙・受動喫煙予防) ①実践事例報告を受けて検討します。 ②地域の健康課題の解決への取組みについて ③他職種との連携と保健師の役割と責任について

討議で 工夫した点	①事前事例報告のテーマに沿って協議する ②協議のテーマはタイムキーパーによりコントロールした。 ②発言しやすい人数にした。 ③記録は各自がふせん紙に行い、皆が共有できるようにした。
--------------	---

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 3 2 ①
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 3 ② 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	4 3 ② 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4 ③ 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4 ③ 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 3 2 1
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4 ③ 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものであったか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1

考察
<p>① 講師、講演テーマについて、新任期はもちろん、中堅期や管理期の保健師にとっても関心が高く好評を得た。</p> <p>② 実践事例報告では事例を優先に依頼したことから発表自治体に新任期保健師がいなかったため新任期保健師からの実践事例報告を入れることができなかった。</p> <p>しかし、行政として法律根拠、地域課題をとらえ、地域で多職種との連携のもと実践している取り組みの報告であり、内容は充実していた。</p>

結果評価

【評価基準】
4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
① 新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	④ 3 2 1
② 新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 ③ 2 1
③ 参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	④ 3 2 1
④ 参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 ③ 2 1
⑤ 参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 ③ 2 1
⑥ 参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 ③ 2 1
⑦ 指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 ③ 2 1
⑧ 参加者の満足を得ることができたか	4 ③ 2 1
⑨ 県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	④ 3 2 1

考察
<p>① 行政組織の中で専門職の役割や責任への気づきがあった。</p> <p>② 行政職として、専門職として住民の声を良く聞き、施策化を図れるようになりたいなど目指す目標を確認できている。</p> <p>③ 新任期のみならず、中堅期にも継続して企画してほしいとの声もあり、有意義な研修テーマであった。</p>

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 (3) 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 (3) 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 (3) 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 (3) 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	(4) 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	(4) 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	(4) 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	(4) 3 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	(4) 3 2 1
考察	
<p>①講演により知識を習得し、実践事例報告により、他自治体の取組みの情報を得て、グループワークにより、新しい知識と他の取組みの情報を得たうえで、自身の自治体の取組みや行政の中での保健師の役割と責任を認知する機会となった。</p> <p>本企画の当所の目的は概ね達成された</p> <p>②グループワークの時間にゆとりがほしかったとの意見もあり、次回は配慮することとする。</p> <p>③助産師職能委員との連携を目的に母子保健分野への参加により子育て期における包括支援について意見交換ができ、今後の連携の発展が期待できる。</p>	

まとめ

- ① 参加者は新任期から中堅期が48%、管理期52%で保健師の各年代層が同じテーマを共有し、グループワークにより共に協議する機会となった。
- ② 看護協会の研修企画がより各年代層が自由な雰囲気的交流し、参加しやすい研修が求められている。
- ③ 保健師職能と助産師職能の交流の機会となり、今後の看護職間の連携の発展に期待ができる。今後も看護職間の連携を視野に入れながら研修を企画することは有意義である。

茨城県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期及び指導保健師のスキルアップを図る
- ② ファシリテーター・板書係などの役割を通し、効果的な個別事例のアセスメントを学ぶ
- ③ 各職域の保健師の交流ができる

目標

- ① 新任保健師
事例検討会のやり方を理解し、アセスメント能力を伸ばす契機とすることができる。
実践事例の検討を通し、自身の実践を振り返ることができる。
自身の強化すべきスキルに気づくことができる。
- ② 指導保健師
新任期保健師の目標が到達できる。
問題解決のための手段としての事例検討会を通し、新任期保健師への指導に活かすことができる。
- ③ 共通
保健師活動における事例検討の重要性を理解できる。
領域を超えてお互いの活動を知ることができ、保健師間で連携・交流が取れる機会となる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/7/11 1.5時間程度 (13:30-15:00)	【実施者】 職能委員 6名 計 6名
	【実施理由】 保健指導ミーティングの目的、目標、日程及び内容等について確認・検討する
	【内容】 ・昨年度の保健指導ミーティングの実施内容等の共有 ・本年度の保健指導ミーティングの事業計画 ・中堅期を対象に開催する保健指導ミーティングとの連動
保健指導ミーティング実行委員会	
【実施日】 H28/9/20 1.5時間程度 (13:30-15:00)	【実施者】 職能委員 5名 講師 1名 計 6名
	【実施理由】 講師との顔合わせを行い目的、目標、実施内容等の共有と協議
	【内容】 ・目的、目標、当日の実施内容と方法について ・生活習慣病を事例を取り入れる必要があることから検討事例の収集について ・ファシリテーター等との事前打ち合わせについて
保健指導ミーティング事前打ち合わせ	
【実施日】 H28/10/13 2.5時間程度 (13:30-16:00)	【実施者】 職能委員 5名 講師 2名 ファシリテータ 4名
	【実施理由】実施に向けての顔合わせと内容及び役割の確認、内部研修
	【内容】 ・検討事例は、新任期参加者提供の4例で、生活習慣、母子、介護予防、精神

	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュール及び資料の確認 ・ファシリテーターの役割の確認とグループワークの進め方、研修
実行委員会	
【実施日】 H28/11/10 30分程度 (9:00-9:30)	【実施者】 職能委員 6名 講師 2名 ファシリテーター 5名 計 13名
	【実施理由】 運営の最終確認
	【内容】 それぞれの役割、タイムスケジュールの最終確認

周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1) 会員に対する取り組み

- ・看護協会から個人会員及び会員施設（行政、産業、健診、医療、地域包括支援センターその他保健師の所属する勤務先）に開催案内を送付
- ・県人材育成担当者から保健所と市町村の統括保健師宛にメールで開催案内
- ・保健師職能委員による研修会等での周知
- ・看護協会HPにて周知

(2) 非会員を含めた取り組み

- ・看護協会から会員外の市町村、地域包括支援センター等に開催案内を送付
- ・産業、健診領域の保健師に対して、看護協会から保険者協議会会員に開催案内を送付
- ・県人材育成担当者から保健所と市町村の統括保健師宛にメールで開催案内
- ・保健師職能委員による研修会等での周知
- ・看護協会HPにて周知

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会 挨拶 オリエンテーション 保健指導ミーティングのねらいと説明	③
10:10	事例検討会デモンストレーション DVD 視聴 【講義 1】 事例検討会の必要性・実践力 UP 事例検討会	① ② ③
11:40~11:50	グループワーク 自己紹介 役割分担等	
12:50	オリエンテーション 【演習 1】 実践力 UP 事例検討会の実施	① ② ③
14:30	【講義 2】 個別面接について 【演習 2】 ロールプレイ「個別面接」 質疑応答	① ③
15:35	全体討議 まとめ	① ② ③
15:50	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）： (2)事例発表者の保健師経験年数：約 2年 (3)発表タイトル：介護保険を更新申請するが、サービスを拒否する夫婦への働きかけ
実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）： (2)事例発表者の保健師経験年数：約 4年 (3)発表タイトル：家族背景が複雑な生活習慣病の予防行動がとれない事例
実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）： (2)事例発表者の保健師経験年数：約 6年 (3)発表タイトル：大家族で適切な育児行動がとりにくい家族の事例

実践事例発表の概要

- (1)事例発表者の所属領域 (行政・産業・医療・福祉等) :
 (2)事例発表者の保健師経験年数 : 約 3年
 (3)発表タイトル : 病識が欠如している統合失調症の親子への支援

グループ討議

構成	8～9人 × 4グループ
討議のテーマ	上記、介護予防 G、特定保健指導 G、母子保健 G、精神保健 G の 4 つのグループで出された事例について事例検討を実施した。
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の意見を引き出すことに留意し、全員が発言できるように配慮する。 参加者が事例検討の目的を理解し、アセスメントやその過程の共有や振り返りができるようホワイトボードを使用することによって可視化し、情報の整理を行った。 ファシリテーター、板書係、事例提供者それぞれの役割が理解でき、参加者から、多くの意見を引き出し、より良い支援策につながるような円滑な進行を心掛けた。 事例提供者や発言者に対し、非難や否定的な意見がでないようグラウンドルールを徹底する。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

- 非常にそう思う(とてもできた)
- ややそう思う(ややできた)
- あまりそう思わない(あまりできなかった)
- 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
③数多くの保健師の参加が得られたか	4 ③ 2 1 └──┬──┬──┘

④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑧プログラム内容は参加者に適したものだったか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
考察	
<p>●開催曜日を平日にしたため、昨年よりも多く参加が得られた。</p> <p>●事例検討ではファシリテータと板書係を中堅期が行ったため、スムーズに進行、事例検討に集中でき、活発な意見交換が行えた。</p> <p>●事例検討に生活習慣病予防を入れることにより、産業保健師の参加につながった。また、それぞれの保健指導の振り返りがすることができた。</p> <p>●他分野の保健師との交流ができ、自分の担当以外の分野の事例について考えることができる良き機会となった。</p>	

結果評価

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 ③ 2 1 └──┬──┬──┘
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 ③ 2 1 └──┬──┬──┘
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘

⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	④ 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 ③ 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 ③ 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	④ 3 2 1
考察	
<p>●産業保健師の参加が少なく、満足度も低いようであった。1度だけの研修では、理解が困難な面があったと思われる。</p> <p>●今後、職場で事例検討ができるかという問いには、96%ができると回答があった。</p> <p>●ケースを一人で抱えるのではなく、チームでアセスメントすることで解決の糸口を見つけ、チームで支援していくことの重要性が共通認識できた。</p> <p>●GWでは、自分とは違った視点のからの意見を聞くことができ、自分では気づかない部分や思考の片寄を気づける良い機会となったという意見が多かった。</p> <p>●支援ありきのアセスメントではなく、当事者が何を求めているのかを考えての支援が大切だと認識できる、アセスメントのスキルアップにつながった。</p> <p>●同職場からの新任期とプリセプター一緒の参加はなかった。中堅期保健師を対象に別途実践力UP事例検討に関する研修会を実施したことも要因として考えられる。</p>	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	④ 3 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	④ 3 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	④ 3 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	④ 3 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	④ 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	④ 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	④ 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	④ 3 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	④ 3 2 1

考察
<ul style="list-style-type: none"> ●平日開催のため、新任期とプリセプターの同日参加ができる環境になく、新任期の研修参加が優先されているようであったが、休日開催よりは参加しやすかったようである。 ●事例検討ではファシリテータと板書係を中堅期が行ったため、新任期の保健師が事例検討に取り掛かりやすかったと考える。 ●事例検討を生活習慣病、精神、介護予防、母子保健の4項目を設定したため、様々な分野の保健師の参加が得られた。 ●事例提供者を交えた打合せ、事例提供者とファシリテータの打合せが必要。

まとめ

本年度 2 年間の参加者を対象に実施した事例検討会の実施に関するアンケートでの「職場内で実施している」より「できない」が多く、「実施しようと声が出せない」という意見があった結果と今回の評価から、研修の構成を見直し、より多くの新任期とプリセプターが参加し経験することで、定着してさせていく必要がある。

県内で 1 カ所開催しているが、地域単位で開催することや開催曜日を工夫することで事例検討に取り組む風土を構築していく。

事例は、新任期であっても処遇困難な事例が多いため、アセスメントを言語化する難しさを痛感する。シンプルなものが良い。

栃木県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期保健師が実践事例をとおして保健指導のあり方を検討することで、保健指導のスキルアップを図る。
- ② 新任期保健師を指導するプリセプターの役割を果たす中堅期保健師が保健指導のあり方と新任期保健師への支援のあり方を考える。
- ③ 研修をとおして職域や階層を越えた保健師との交流を深め、ネットワークの強化を図る。

目標

- ① 実践力 UP 事例検討会の実際を体験し、その有効性に気づく。
- ② 実践力 UP 事例検討会の実施方法や留意点を理解し、職場での活用ができる。
- ③ 個々の参加者が自己の保健指導を振り返り、それぞれの課題に気づく。
- ④ 中堅期保健師として新任期保健師の支援における役割や支援方法の振り返りができる。
- ⑤ 多様な領域や階層の保健師とともに事例検討や意見交換を行うことで、参加者の相互理解を深める。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/9/23 1時間程度 (9:30-10:30)	【実施者】 職能委員： 7名 <div style="text-align: right;">計：7名</div>
	【実施理由】 新任の職能委員も多いため、前年度の保健指導ミーティングの実施状況の振り返りを行うとともに、今年度の企画内容の確認、準備作業スケジュールの確認等を行うため
	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ H27年度の保健指導ミーティングの実施状況と改善点について ・ 研修案内の方法について（通知に加え、メールにて案内を送付する） ・ 研修の流れの一部変更について（事例検討・グループワークに一貫性を持たせる）
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/10/25 1.5時間程度 (9:30-11:00)	【実施者】 職能委員： 6名 コーディネータ： 1名 <div style="text-align: right;">計：7名</div>
	【実施理由】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践力 UP 事例検討会におけるファシリテータの役割についての学習会を実施し研修会についてのイメージ化を図る。 ・ 概ねの参加者数が固まってきたため、研修の具体的な運営方法について検討する。
	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践力 UP 事例検討会の進め方及びファシリテータの役割についてコーディネータの講義及び演習を実施。 ・ 当日までの準備作業および役割分担の決定

講師との事前打合せ	
【実施日】 H28/11/24 1時間程度 (16:00-17:00)	【実施者】 職能委員： 2名 講師 1名 計：3名
	【実施理由】 保健指導ミーティング全体の進め方及び講義内容等の確認のため 研修会場借用依頼、当日の会場設営等の打合せのため
	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・研修当日の流れについての説明（講義を研修最後に行うことで講師了解） ・提供事例の説明、当日の参加申込み状況について ・会場借用の際の留意点等の確認
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/11/29 2.5時間程度 (9:30-12:00)	【実施者】 職能委員： 7名 計：7名
	【実施理由】 <ul style="list-style-type: none"> ・当日の運営方法、役割についての最終確認、準備のため
	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・当日の役割分担について ・事例検討事例について ・事例検討会の進め方について

周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1) 会員に対する取り組み

- ・対象となる会員の所属組織（行政・産業・医療機関・福祉施設等）には研修案内を郵送
- ・保健師職能だよりを研修の受講者募集時期に合わせて作成、配布し、前年度の実施状況等についての情報提供と今年度の募集についての周知を図った。
- ・保健指導ミーティングのPRチラシを作成し、会員あてにメールにて送信するとともに、関係者への情報提供についても依頼した。

(2) 非会員を含めた取り組み

- ・県内の保健師の任意団体（県職員保健師会等）への情報提供
- ・会員のいない組織にも保健指導ミーティングのPR用チラシをメールにて送信。

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会	
10:10~12:00	実践力UP事例検討会 （5グループ編成） 1 事例検討の進め方等の説明 2 実践事例発表 ① 虐待をしてしまう母親への支援 発表者：栃木市役所 岸 範子 ② うつ病に罹患している母親への育児支援 発表者：足利市役所 三室 愛 ③ 重症化予防対象者への支援 発表者：大田原市役所 澁江 夏美 ④ 統合失調症の女性の生活習慣改善への支援 発表者：足利市役所 南齋 愛美 ⑤ アルコール依存のある双極性障害の女性への支援 発表者：上三川町役場 小池 彩 3 各グループでの検討状況の発表	① ③
12:00~13:00	休憩	
13:00~14:20	○グループ討議 （階層別に5グループ編成） 新任期グループ：事例検討を実施して気づいたこと、学んだことについて話し合った。 中堅期グループ：新任期への支援を行う上での悩み、中堅期の役割等について話し合った。 ○グループ討議結果の発表	
14:20~14:30	休憩	
14:30~16:00	講義「保健指導のスキルアップを図るために」 講師：自治医科大学看護学部 春山早苗学部長	
16:00	閉会	

実践事例発表の概要	
①母子保健事例 1	(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 9 年 (3)発表タイトル：虐待をしてしまう母親への支援
②母子保健事例 2	(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年未満 (3)発表タイトル：うつ病に罹患している母親への育児支援
③生活習慣病事例 1	(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 14 年 (3)発表タイトル：重症化予防対象者への支援
④生活習慣病事例 2	(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年未満 (3)発表タイトル：統合失調症の女性の生活習慣改善への支援
⑤精神保健事例	(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 5 年 (3)発表タイトル：アルコール依存のある双極性障害の女性への支援

グループ討議

構成	6～7人 × 5グループ
討議のテーマ	実践力 UP 事例検討 自らの保健指導を振り返りながら、検討事例の情報整理、アセスメント、具体的な支援策について検討する一連のプロセスを学ぶ。
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討の全体の流れを参加者が体験しやすいように、各グループのファシリテータ・板書係は職能委員が担当した。なお、円滑な進行ができるよう、事前に職能委員全体で事例検討会についての学習会の機会を設け、コーディネータからの講義、事例検討のロールプレイ演習等を行った。 参加者の希望により、母子保健・生活習慣病・精神保健の3種類5グループ

	<p>プ編成をしたが、グループ編成に際しては、勤務している領域、所属組織の地域、経験年数等を考慮して、グループメンバーを決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑な進行ができるよう研修当日の開会前に、事例提供者、ファシリテータ、板書係の打合せを実施した。 ・コーディネータがタイムキーパー約となり、事例検討の各段階の時間管理を行うと共に、各グループを巡回し、検討の進め方について必要に応じて助言等を行った。 ・グループメンバー全員が常にホワイトボードを見ながら検討できるよう、必要な事項はホワイトボードに掲示した。 ・検討中はメモをとらないでも大丈夫なように、ホワイトボードに記載した内容を印刷しグループメンバーに配布した。
--	---

構成	6～7人 × 5グループ
討議のテーマ	<p>新任期、中堅期に分かれて事例検討会の体験を踏まえて以下のテーマでの話し合いを実施。</p> <p>新任期：事例検討を実施して気づいたこと、学んだこと</p> <p>中堅期：新任期への支援における中堅期としての役割とは</p>
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って話しやすくするため、新任期と中堅期とを分けてグループ編成を行った。 ・いろいろな領域の保健師との交流ができるように、グループのメンバー構成は行政ばかりに偏らないよう考慮した。 ・テーマは大まかなものとし、それぞれのグループで自由な意見交換ができるよう、検討時間を多めにとるよう配慮した。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 (3) 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 (3) 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	(4) 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	(4) 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	(4) 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	(4) 3 2 1
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	(4) 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか(参加者の反応等からの評価)	(4) 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	(4) 3 2 1
考察	
<p>・事例提供者の決定については、本人の主体性を重視し受講者の希望をとって決定したが、生活習慣病の事例については事例提供者の立候補者がなく、研修スタッフからの依頼によりやっと決定したという状況だった。事例選定方法については、今後、検討が必要である。</p> <p>・総受講者数は昨年より増加した。昨年実施しなかったメール等による受講案内を実施したことが有効だったと思われる。行政機関への周知の機会が多いが、その他の領域への周知ルートの開発が今後の課題である。</p>	

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 3 2 1 <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
考察	
<p>・グループ編成を工夫する等により、いろいろな領域で働く保健師との交流が可能なように配慮した。その結果、ネットワークの第1段階としての相互理解は深められたと思われる。</p>	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 4
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 3 2 1 <input checked="" type="radio"/> 4
考察	
<p>・開催時期は他団体の研修等との重なりがないよう、事前調整して決定できた。</p> <p>・会場は毎年、同会場で実施しているため、会場設営もしやすい。今年は指定された駐車場以外の場所に駐車した参加者が若干見受けられたので、受講案内の文書内に駐車場の利用方法について明記しておく必要があると思われる。(過去にはこのようなトラブルはなかった)</p> <p>・今後は行政以外の領域の参加者を確保するため、産業や医療機関、福祉関係の団体等への働きかけを検討していきたい。</p>	

まとめ

・今年度は新任期に偏ることなく、中堅期の参加者も確保できたので、相互交流の機会が得られて、学びの

幅も広がったように思う。

・本県では、産休・育休で長期間休暇をとって職場復帰をする際のサポート体制が未確立であるため、その体制の一貫として、本研修を活用するのも有効であると思われる。今後は、積極的に PR していきたい。

・県内でこの実践力 UP 事例検討会を現任教育の一環として実施する自治体が少しずつではあるが増加してきているので、活用状況や現場の声を把握し、次年度の企画に生かしていきたい。

・本県の保健指導ミーティングは今年度で 4 年目。次年度については、これまでの実施評価をしっかりと行

い
本事業の方向性をしっかりと検討していく年にしたい。

埼玉県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期保健師が、個別指導の基礎的な知識と技術について、演習を通じて学び、保健師活動の意義を認識できるようにする。保健師としての意欲を高め、資質向上につなげる。

目標

事例検討の必要性、効果について理解する

- ① 事例検討の演習により、情報収集及びアセスメント能力を向上させる。
 ② 事例に即した支援について、多角的な視点の必要性を認識できる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/10/1 2時間程度 (13:00-15:00)	【実施者】 職能委員：8名 講師：名 実践事例発表者：名 ファシリテータ：4名 計：12名
	【実施理由】 事業目的の共有を図り、円滑な運営を目指す。
	【内容】 研修プログラムの説明と役割分担の検討・確認。

周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1) 会員に対する取り組み

(例) 会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

- ・ 関連施設、保健所 17 施設、保健センター 92 施設、地域包括支援センター 256 施設への案内通知・チラシを郵送した。
- ・ 県協会ホームページに研修案内を掲載した。

(2) 非会員を含めた取り組み

(例) 職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

- ・ 同上

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

《1回目》

時間	プログラム	関連する目標
13:00	開会	
13:10～14:30	講義「面接の基礎」 講師：田熊 喜代己先生（臨床心理士） カウンスリングルームベア代表 済生会川口総合病院相談室	②
14:30～14:35	休憩（5分）	
14:35～15:15	グループ討議：テーマ「面接技術を学ぶ」 模擬事例（講師準備）を用いて、主訴・見立て・関わり方について話し合う。	①②
15:15～16:00	グループ発表・講評	①②
16:00	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 年
(3)発表タイトル：

構成	研修生 3 名・ファシリテータ 1 名× 3 グループ 研修生 4 名・ファシリテータ 1 名× 1 グループ
討議の テーマ	1. 面接の基礎 テーマ：「面接技術を学ぶ」（相談の受け取り方の癖、自分の特徴を知る） 主訴・見立て・関わり方のポイントを学ぶ。 2. 事例検討会 情報の整理・アセスメントができる。
討議で 工夫した点	1 グループあたりのメンバーを 4 人以内にし、皆が発言しやすいようにした。

《 2 回目 》

時間	プログラム	関連する目標
13 : 00	開会	
13 : 10～13 : 45	講義「スキルアップにつながる事例検討会」 講師：中板 育美先生 日本看護協会常任理事	②
13 : 45～15 : 15	1. ファシリテータによる事例検討会のデモンストレーション（シナリオ使用） 2. グループ討議 日本看護協会が開発した実践力アップ事例検討会の手法を活用し、模擬事例（委員会にて準備）を用いた事例検討会を実施	①②
15 : 15～15 : 55	グループ発表・講評	
15 : 55～16 : 05	講義「自分自身のキャリアを考える」 講師：斉藤 富美代先生（職能委員） ※林裕栄先生の代行	
16 : 05	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）： (2)事例発表者の保健師経験年数：約 年 (3)発表タイトル：

グループ討議

構成	研修生 4 名・ファシリテータ 2 名 × 2 グループ 研修生 4 名・ファシリテータ 1 名 × 1 グループ
討議の テーマ	模擬事例を基に、情報の整理、アセスメントをして支援計画を立てる。
討議で 工夫した点	1 グループあたりのメンバーを 4 人以内にし、皆が発言しやすいようにした。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
① 新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 3 2 ①
② 様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 ③ 2 1
③ 数多くの保健師の参加が得られたか	4 ③ 2 1
④ 目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4 3 2 ①
⑤ 目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 3 2 1
⑥ グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 3 2 1
⑦ ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	④ 3 2 1
⑧ プログラム内容は参加者に適したものだったか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1
⑨ プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1
考察	

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	④ 3 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	④ 3 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 ③ 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 3 ② 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	④ 3 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	④ 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	④ 3 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	④ 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 3 ② 1
考察	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	④ 3 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 ③ 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 ③ 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 3 ② 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	④ 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	④ 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	④ 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	④ 3 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 3 ② 1
考察	
<p>参加者は意欲的な新任期保健師が多く、研修目的も達成できたといえる。 研修準備では、ファシリテータを依頼し、打ち合わせをするための時間が十分に取れていないが、管理期クラスの方に多く引き受けて頂いたので、スムーズに進行できた。</p>	

まとめ

まとめ
<p>新任期を中心に企画してきたが、今後は中堅期も多く参加してもらえるよう工夫を重ねていきたい。</p>

長野県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期（2年から3年目）の保健師が実践事例をとおして、保健指導や支援の在り方を検討することで保健指導のスキルアップを図る
- ② 新任期の保健師を指導するプリセプターの役割を果たす中堅期保健師が、実践事例の検討に加わり助言することで新任期の在り方を考える
- ③ 階層や職域を超えた保健師間のネットワークの強化を図る

目標

- ① 参加者が自分自身の保健指導を振り返ることができる
- ② 保健指導を意識化することができる
- ③ それぞれが強化しなければならない保健指導スキルに気づく

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/9/6 2時間程度 (10:00-12:00)	【実施者】 職能委員： 7名 事務局： 1名 計：8名 【実施理由】 事例検討会日程、コーディネータ、ファシリテータ、講師の検討 【内容】 検討会日程：12月19日 講師、コーディネータ、ファシリテータを信大奥野先生依頼
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/10/6 2時間程度 (1:30-15:30)	【実施者】 職能委員： 7名 事例発表者：1名（職能委員再掲） コーディネータ：1名（職能委員再掲） 計：7名 【実施理由】 模擬事例検討会の実施により、事例検討会のイメージをつける 【内容】 職能委員で事例検討 ファシリテート、板書方法を学ぶ。アセスメントの分類を学ぶ 事例提供者の事例内容の確認（事前にファシリテータへ資料を提出）
保健師職能委員会 当日事前打合せ	
【実施日】 H28/12/19 3時間（9:30-12:30）	【実施者】 職能委員： 7名 事例発表者：3名 コーディネータ： 1名 ファシリテータ：2名 計：13名 【実施理由】 事例提供者、ファシリテータ、板書係最終打合せ 【内容】 事例の要点を確認、事例提供の理由と概要の確認 ファシリテータとコーディネータの各事例の支援目的と支援策の検討と確認

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

(例)会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

長野県、市町村長、病院長宛への一般応募通知

新人保健師研修会受講者への個別通知

ホームページ、広報「看護ながの」での周知

(2)非会員を含めた取り組み

(例)職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

長野県、市町村長、病院長宛への一般応募通知

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
13:30	開会	
13:35~14:30	講義「事例検討の意義と方法」 講師 信州大学医学部保健学科 奥野ひろみ先生	①、②
14:30~14:35	休憩	
14:35~15:00	1、実践事例発表「育児支援者が要介護状態となり、育児と介護の両立が予測される事例」 発表者：長野市保健所 丸山 みどり	①、②、③
	2、実践事例発表「成人になってから ADHD と診断がついた青年を通じた家族支援」 発表者：上田保健福祉事務所 北原智美	①、②、③
	3、実践事例発表「がん就労者への支援」 発表者：セイコーエプソン(株) 内田麻里奈	①、②、③
15:00~16:00	各グループ討議	①、②、③
16:00~16:30	事例検討会感想の共有と事例提供者へのねぎらい コーディネータ 奥野ひろみ	①、②、③
16:30	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域 (行政・産業・医療・福祉等)：健康課 保健センター (2)事例発表者の保健師経験年数：約 4 年 (3)発表タイトル：「育児支援者が要介護状態となり、育児と介護の両立が予測される事例」
実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域 (行政・産業・医療・福祉等)：保健福祉事務所 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 3 年 (3)発表タイトル：「成人になってから ADHD と診断がついた青年を通じた家族支援」

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（行政・ 産業 ・医療・福祉等）：	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 7 年	
(3)発表タイトル：「がん就労者への支援」	

グループ討議

構成	18人 × 1グループ
討議のテーマ	育児支援者が要介護状態になり、育児と介護の両立が予測されるケース
討議で工夫した点	<p>新任期が誰でも経験する内容の事例で、新人が陥りやすい課題について明確にするよう工夫。</p> <p>行政に勤務する2年目～3年目が中心で、プリセプター役の保健師が数名参加</p>

構成	17人 × 2グループ
討議のテーマ	成人になってからADHDと診断がついた青年と家族支援
討議で工夫した点	<p>ADHDのため、幼少期に虐待を受けるなど2次障害がある困難事例のため、保健福祉事務所勤務や経験年数が4年目5年目の参加者を多くした。</p> <p>難しい事例であることから、情報の整理とアセスメントの時間を十分に取った。また、事例提供者へ充分労をねぎらった。</p>

構成	17人 × 1グループ
討議のテーマ	がん就労者への支援の難しさを感じた事例
討議で工夫した点	<p>最期にがん就労者支援マニュアルや厚労省の疾患を抱える従業員の就労継続取組の紹介をし、本事例が企業としてかなり頑張っていることを明確にした。</p> <p>また、討議により事例提供者の新しい気づきについても具体的に聞くことにした</p>

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっただか(参加者の反応等からの評価)	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
考察	
<p>参加者数は、ほぼ予定通り 52 名の参加。若干多かったので、検討会の回数・グループ数を多くする必要がある。</p> <p>参加者は、「役に立つ内容」「自身に必要なことを学ぶ」という満足度が高かった。</p>	

【評価基準】

- 4. 非常にそう思う(とてもできた)
- 3. ややそう思う(ややできた)
- 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
- 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 2 1 └───┬───┬───┘
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 2 1 └───┬───┬───┘
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 2 1 └───┬───┬───┘
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 2 1 └───┬───┬───┘
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	<input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1 └───┬───┬───┘
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	<input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1 └───┬───┬───┘
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 2 1 └───┬───┬───┘
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 2 1 └───┬───┬───┘
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 <input checked="" type="checkbox"/> 2 1 └───┬───┬───┘
考察	
<p>アンケートからスキルアップの動機づけや強化すべきスキルを明確にすることができた。 「自組織でもこの方法で事例検討をやりたい」という意見もあり、学ぶ意欲が深まった。 階層や職域を超えてのネットワークまでは、1回の検討会では、難しい。</p>	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
考察	
<p>周知方法は、新任期研修受講者+県・市町村長宛で参加しやすかった。 産業保健関係者への案内は、新人だけでなく、職能委員通じて周知する方法が良い。 講師、ファシリテータは、この方法での事例検討を熟知されているため、昨年同様適切にできた。</p>	

まとめ

長野県では、系統的な保健師人材育成において、県協会は、新人・中堅期を担っている。

新人では、コミュニケーションをどうとるかに重点をおいているため、アセスメント力を深める研修が、中堅期までに必要とされる。そこで、新人研修を修了した翌年から3年間、保健指導ミーティングの対象とした。

昨年初めて実施し、反響も大きく、その後各地域でも事例検討会が実施されるようになったが、ファシリテータが上手くできないという方もいて、勉強のために今回受講したベテラン保健師もいた。事例検討会とともに、今後ファシリテータ研修を実施していくことが大切に感じる。

また、アセスメントの言語化ができない新人保健師が多く、この部分に時間をかけることが重要に思われた。参加者希望も多いことから、定期的に各地域でできるような支援方法を考えていく必要がある。

地域ごとに実施することにより、今回難しかったネットワークの強化につながるように感じる。

富山県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期及び指導保健師の保健指導のスキルアップの動機付けを行い、その手法について学ぶ。
- ② 管理期の保健師が、実践力向上のための現任教育の手法について理解し、各職場で実践できるよう意識を高める。

目標

- ① アセスメント能力の向上を図るための手法の一つとして、事例検討会の必要性を理解する。
- ② 日本看護協会で策定された「実践力アップ事例検討」について理解し、職場で実践、普及できるようにする。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/09/13 2 時間程度 (16:00-18:00)	【実施者】 職能委員：9名 計：9名
	【実施理由】 研修の企画について検討
	【内容】 事例提出者、ファシリテータの選出 周知方法 役割分担
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/11/07 3.5 時間程度 (14:00-17:30)	【実施者】 職能委員：9名 計：9名
	【実施理由】 保健指導ミーティングの実際を共有
	【内容】 事例検討のすすめ方 DVD 視聴 当日役割分担 すすめ方最終確認
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/12/03 1 時間程度 (16:30-17:30)	【実施者】 職能委員：8名 計：8名
	【実施理由】 保健指導ミーティングの評価
	【内容】 保健指導ミーティングの評価 次年度の検討

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

- ・会員名簿に基づく周知
- ・会報誌、県協会ホームページ等による周知
- ・市町村、県保健師の協議会等を通じて、参加を広く呼びかける(文書、メール等)
- ・福祉、産業、医療、教育等の分野で働く保健師にも呼びかける

(2)非会員を含めた取り組み

- ・研修等の機会に周知

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
13:00	開会	
13:00～13:30	講義「実践力アップのための事例検討会の必要性とその方法」	① ②
13:30～14:00	演習オリエンテーション、DVD鑑賞	① ②
14:00～15:30	グループ討議 事例発表 演習	① ②
15:30～15:40	発表 4 グループ	① ②
15:40～16:00	講評・まとめ	① ②
16:00	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1) 事例発表者の所属領域：行政 (2) 事例発表者の保健師経験年数：1年目 2名、2年目 1名、15年目 1名 (3) 発表タイトル：別添のとおり 4事例

グループ討議

構成	10人 × 4グループ
討議のテーマ	事例検討 アセスメントから実施計画まで
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテータは経験者中心とし、討議時間を十分にとり、全員が発言できるよう配慮した。 ・参加者は行政中心だったが、様々なメンバーと話ができるように、年齢構成や所属などに留意した。 ・事例提出者は新任者のため、所属のプリセプターも参加し、事例検討の方法も学び、今後のフォローにつながるようにした。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
① 新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
① 様々な領域から新任期の保健師を集められたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
② 数多くの保健師の参加が得られたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
④ 目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑤ 目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑥ グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑦ ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑧ プログラム内容は参加者に適したものだっか(参加者の反応等からの評価)	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑨ プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く県内に参加を呼びかけたが、所属の行事等で参加機関には若干偏りが見られた。 また、行政以外の参加が少なく、次回の課題として残った。 ・ プログラムは適切な内容だった。 	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	○ 4 3 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	○ 4 3 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	○ 4 3 2 1
③ 参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	○ 4 3 2 1
④ 参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	○ 4 3 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	○ 4 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	○ 4 3 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	○ 4 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	○ 4 3 2 1
考察	
<p>・事例発表者は、日頃聞けない参加者のいろいろな意見を聞くことができ大変参考になったと述べていた。</p> <p>・アンケートでは、自分の保健指導の課題に気づくことができた。今日のスキルアップへの動機付けができたと答える者が多かった。</p>	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
① 新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
④ 健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑤ 多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑥ 様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑤ 事業の目的・目標の設定は適切だったか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑥ 目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑦ 事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑧ 企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑨ 関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	○ 4 3 2 1 └──┬──┬──┘
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の実施にあたり、関係者との打ち合わせやメール、電話等で連絡を行い、目的や方法の確認を行ったことで当日はスムーズに運営できた。 ・ 開催日は忙しい期間ではあるが、早期から計画を立て、関係者への周知も行ったので、時期としては適切だった。しかし、産業、医療、教育分野からの参加が少なく、今後はアプローチ方法の検討が必要。 ・ 関係団体にもメールや電話により周知を依頼した。 ・ 事例提出者やファシリテータの依頼に対し、趣旨を理解し快く承諾、協力していただいた。 	

まとめ

昨年度に引き続き2度目の実施であった。昨年度から所属や厚生センター管内で実施している機関もあり、理解度には差が見られた。しかし、全体に、参加者からは、個別的ケアのアセスメント能力の向上につながり、保健指導のスキルアップにつながったと回答しており、一定の成果があったと思う。新任期の保健師だけでなく、指導者の力量形成にもつながった。

次回の継続を望む声もあり、産業や医療などの分野を広げること検討していきたい。

石川県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 重症化予防に向けた保健指導力の向上が図られるよう、各現場で実践可能な方法として、事例検討によるスキルアップ（保健指導ミーティング）を実施できるよう研修を行う。
- ② 保健師間のネットワーク強化に寄与する。

目標

- ① <新任期保健師>
自身の実践を振り返り、保健指導のスキルアップのために強化すべきことがわかる。
- ② <指導保健師>
今後各部署において事例検討をとおした後輩指導が実践できるよう、事例検討の実践方法について明確にイメージできる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/9/16 2時間程度 (15:00-17:00)	【実施者】 職能委員：4名 コーディネータ：1名 計：5名
	【実施理由】 研修内容の具体の決定を行うため
	【内容】 実践事例発表者の選定 事例検討の事例提供者及び事例の選定

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

- メールによる周知
- 職場委員からの周知

(2)非会員を含めた取り組み

- 職能委員及び職場委員からの周知

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会	
10:00～ 10:30	実践事例発表「事例検討会の実際」 ①成人保健分野 発表者：中能登町役場 向井幸子 ②介護保険分野 発表者：津幡町役場 徳本真理 ③母子保健分野 発表者：津幡町役場 高村彩那	①、③
10:30～ 12:00	講義「効果的な事例検討会とは」 講師：砺波厚生センター 石丸敏子氏 高岡厚生センター 谷口理恵氏	①、②
12:00～ 13:00	休憩	
13:00～ 15:30	事例検討の実践 3グループに分かれ事例検討の実施	①、②
15:30	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要①
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数 約20年 (3)発表タイトル：成人保健分野における事例検討の実際
実践事例発表の概要②
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数 約20年 (3)発表タイトル：介護保険分野における事例検討の実際
実践事例発表の概要③
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数 約2年 (3)発表タイトル：母子保健分野における事例検討の実際（新任期活動報告）

グループ討議

構成	8人 × 1グループ
討議の テーマ	①成人保健事例 「精神疾患を持ちながら難病を発症したことで生活のしづらさや不安を訴えるケースへの支援」
構成	9人 × 1グループ
討議の テーマ	①介護保険事例 「サービスを拒否する認知症高齢者世帯への見守り支援体制をどのように構築すればよいか」
構成	9人 × 1グループ
討議の テーマ	①母子保健事例 「育児困難が予想される家族への支援」
討議で 工夫した点	①～③ともに実践力 UP 事例検討会の方式を用い、負担なく意見が出せるように実施した

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 3 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 3 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	4 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4 3 2 1
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだったか(参加者の反応等からの評価)	4 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4 3 2 1
考察	
<p>実践発表を聞くことでそれぞれの自己の体験の振り返りになったと考える。 この方式による事例検討に初めて参加するものが多く、事例検討実施前に講義を入れ、イメージできたのもよかった。</p>	

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 3 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 3 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 3 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 3 2 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 3 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 3 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 3 2 1
考察	
事例検討では実践力 UP 事例検討会の方式を用いたことで、年齢や日頃の担当業務や分野を問わず、意見を整理していく過程を体験でき、参加者の満足度が高かった。	

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 3 2 1 └──┬──┬──┬──┘
考察	
各分野のケース検討を行ったことで、様々な分野の方が共有でき、参加したいと思う内容であったと考える。	

まとめ

新任期保健師が自らの課題について考える機会となったとともに、指導保健師も具体的な事例検討を用いた指導方法についてのイメージができたと考えられ、今後の各自のスキルアップにつながったと考える。実践力 UP 事例検討会の方法を周知し、現場で広く取り入れていくことができれば、保健師のスキルアップしいては地域住民へのサービス向上につながると考えられ、今後も継続してこのような研修会を実施できたらよいと考える。

福井県

保健指導ミーティングの企画

目的

保健師のOJTにおいて事例検討の機会が希薄になっている。事例検討会は、支援の密室化を避け、仲間の知識や知恵を結集し、より効果的な支援を提供し、状況改善に向けた行動ができる力を育てる手段である。そこで、保健指導ミーティングを開催し以下の目的を達成したい。

- ① 先輩保健師は、実践力UP事例検討会の実践を通し、自身の保健指導力・後輩育成力を高める。
- ② 後輩保健師は、実践力UP事例検討会を通し、自身の保健指導を客観視し保健指導力を高める。
- ③ 3. 全体会と地域ブロック会を連動することで先輩保健師の事例検討会ファシリテーターとしての力量を上げ、組織として保健指導のスキルアップに事例検討会が定着する。

目標

- 1 全保健師が、実践力UPのための事例検討会の重要性を理解する。
2. 中堅期・管理期保健師が、実践力UP事例検討会のファシリテーターとしての役割を理解する。
3. 中堅期・管理期保健師が、地方ブロックでの保健指導ミーティングで実践力UPのための事例検討会のファシリテーターとしての役割を経験し、また開催しようと思える。
4. 新任期保健師が実践力UPのための事例検討会で保健指導について自分の言葉で言語化できる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/9/6 2.5時間程度 (9:30 -12:00)	【実施者】 職能委員：7名 講師：0名 実践事例発表者：0名 コーディネータ：0名 <div style="text-align: right;">計：7名</div>
	【実施理由】 実践力アップ事例検討会の当日実施に向けた準備のための進捗状況の確認
	【内容】 予算執行について タイムスケジュール決め 広報・周知・参加者の概要の共有 参加者配布資料の確認（ポートフォリオ、アンケート、講義資料等） 役割分担（会場設営、準備物品の用意、グループ分け、ファシリテーター、板書、デモンストレーションの準備） 当日（午前）の市町連絡協議会との事前打ち合わせ会の運営について

保健師職能委員会・市町保健師連絡協議会合同打ち合わせ会	
【実施日】 H28/9/17 2時間程度 (10:00-12:00)	【実施者】 職能委員：8名 講師：0名 実践事例発表者：7名 ファシリテーター：7名 計：22名
	【実施理由】 午後からの実践力アップ事例検討会開催に向けた直前の目的・役割の確認の共有のち3回開催される地方ブロック会開催に向けた保健師職能委員会と市町連絡協議会との共催のための打ち合わせ
	【内容】 ・全体進行の確認 ・ファシリテーターの役割の確認 ・地方ブロック会（北部・中部・南部）の開催について（職能委員会と市町連絡協議会との役割分担、日程、広報、申し込み、事例の確保について）
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/10/13 2.5時間程度 (9:30-12:00)	【実施者】 職能委員：6名 講師：0名 実践事例発表者：0名 コーディネーター：0名 計：6名
	【実施理由】 全体会の振り返りと地方ブロック会の開催の調整
	【内容】 全体会の評価（目標に対する評価および参加者アンケートの結果共有） 地方ブロック会開催の具体的役割分担（共催先である市町連絡協議会との連絡調整、配布資料の事前準備、必要物品の受け渡し、時間配分、福井県看護協会および福井県保健師職能集会の情報提供等）
保健師職能委員・市町連絡協議会（南部）との事前打ち合わせ	
【実施日】 H28/10/25 3時間程度 (9:00-12:00)	【実施者】 職能委員：1名 講師：0名 実践事例発表者：0名 コーディネーター：3名 計：4名
	【実施理由】 地方ブロック会（南部）の
	【内容】 当日の進行および役割の確認 ファシリテーターの役割の確認
保健師職能委員・市町連絡協議会（北部）との事前打ち合わせ	
【実施日】 H28/11/9 1時間程度 (11:00-12:00)	【実施者】 職能委員：3名 講師：0名 実践事例発表者：2名 コーディネーター：5名 計：10名
	【実施理由】 地方ブロック会（北部）の当日の進行に関する打ち合わせ
	【内容】 当日の進行および役割の確認 ファシリテーターの役割の確認

保健師職能委員・市町連絡協議会（中部）との事前打ち合わせ	
【実施日】 H28/11/20 1時間程度 (11:00-12:00)	【実施者】 職能委員：4名 講師：0名 実践事例発表者：3名 コーディネーター：4名 計：11名
	【実施理由】 地方ブロック会（中部）の当日の進行に関する打ち合わせ
	【内容】 当日の進行および役割の確認 ファシリテーターの役割の確認 事例提供者との事例の概要の確認

周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1) 会員に対する取り組み

(例) 会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

- ・ 県看護協会から文書にて会員へのご案内
- ・ 県看護協会ホームページによる周知
- ・ 県保健師長会による会員への周知

(2) 非会員を含めた取り組み

(例) 職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

- ・ 市町保健師連絡協議会によるネットワークによる県内市町村保健師への周知
- ・ 県保健師長会より周知
- ・ 産業保健師への周知

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

1回目:全体会

時間	プログラム	関連する目標
13:00	開会 委員長挨拶・主旨説明・ポートフォリオ記入	
13:10~14:40	講義 「実践力UP事例検討会」とは デモンストレーションおよび解説	① ②
14:40~14:50	休憩	
14:50~16:00	グループ討議① 7グループ (7事例)	① ②
16:00~16:20	グループ討議② 事例検討会の振り返り	① ② ③
16:20~16:30	アンケート・ポートフォリオ記入	① ② ③
16:30	閉会	

2回目:地方ブロック会(南部)

時間	プログラム	関連する目標
14:00	開会 挨拶・主旨説明・ポートフォリオ記入	
14:10~15:00	講義 「実践力UP事例検討会」とは 講師 福井大学医学部看護学科准教授 米澤洋美	① ②
15:00~16:20	グループ討議①3グループ (3事例)	① ②
16:20~16:30	休憩	
16:30~16:40	グループ討議② 事例検討会の振り返り	① ② ③
16:40~16:50	福井県看護協会・福井県保健師職能委員からの情報提供	
16:50~17:00	アンケート・ポートフォリオ記入等	① ② ③
17:00	閉会	

3回目:地方ブロック会(北部)

時間	プログラム	関連する目標
13:30	開会 挨拶・主旨説明・ポートフォリオ記入	
13:35~14:25	講義 「実践力UP事例検討会」とは 保健師職能委員 米澤洋美	① ②
14:25~15:45	グループ討議①2グループ (2事例)	① ②
15:45~15:55	休憩	
15:55~16:15	グループ討議② 事例検討会の振り返り	① ② ③
16:15~16:25	福井県看護協会・福井県保健師職能委員からの情報提供	
16:25~16:30	アンケート・ポートフォリオ記入等	① ② ③
16:30	閉会	

4回目：地方ブロック会（中部）

時間	プログラム	関連する目標
13：30	開会 挨拶・主旨説明・ポートフォリオ記入	
13：35～14：25	講義 「実践力UP事例検討会」とは 保健師職能委員 米澤洋美	① ②
14：25～14：35	休憩	
14：35～15：45	グループ討議①3グループ（3事例）	① ②
15：45～16：10	グループ討議② 事例検討会の振り返り	① ② ③
16：10～16：25	福井県看護協会・福井県保健師職能委員からの情報提供	
16：25～16：30	アンケート・ポートフォリオ記入等	① ② ③
16：30	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：行政（保健所、保健センター、地域包括支援センター）	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約2～30年	
(3)発表タイトル：	
全体会（7グループ）	
グループ	事例の概要
1（生活習慣病）	特定健診にて受診勧奨値であるのに医療機関への受診を拒む住民
2（生活習慣病）	精神疾患を持った方への特定保健指導勧奨
3（生活習慣病）	生活習慣病悪化予防に周囲の支援が必要であった知的障がい者
4（母子保健）	妊婦健診未受診で出産に至った母親
5（母子保健）	小児慢性特定疾病（常時酸素着用）の患児を自宅で介護する母親
6（母子保健）	難病の母子支援
7（母子保健）	キーパーソン不在の不安定な家族関係の中での子育て家族への支援
地方ブロック会（南部）（3グループ）	
グループ	事例の概要
1（母子保健）	4か月から人工呼吸器を装着している児が自宅で療養している家族
2（母子保健）	育児や養育能力のない母親
3（生活習慣病）	動機付け支援該当の就労継続支援を受けている知的障がい者

地方ブロック会（北部）（2グループ）	
グループ	事例の概要
1（生活習慣病）	長年、高血圧であるのに内服を拒否している高齢者
2（母子保健）	精神疾患を持つ母親と乳児院で過ごしている児

地方ブロック会（中部）（3グループ）	
グループ	事例の概要
1（母子保健）	学習障害があるという母の育児支援について
2（母子保健）	介入を拒否する精神疾患を持つ母への育児支援
3（母子保健）	精神疾患があり他者との関わりを築きにくい母親と児への今後の関わり

グループ討議

構成	8～9人 × 15グループ
討議のテーマ	事例提供者による「今回、この事例を事例検討に提出しようと思った理由」に基づいて対象者の理解に向けて、事実と想像・印象を整理し、アセスメントし具体的支援を長期目標・短期目標それぞれについて話し合う。
討議で工夫した点	<ol style="list-style-type: none"> 1 職能委員会と市町保健師連絡協議会との共催のため、討議の中にも両方がグループに入れるよう配置した。 2 事前にファシリテーターと事例提供者が事例の概要について話し合う時間を持った。 3 事前準備の事例の資料は概要と家族構成程度で事前準備に時間をかせさせないよう配慮した。 4 4回開催の事例検討会をパターン化し時間配分や準備物品、配布資料を統一することで運営に係る実行委員の負担を軽減した。 5 全体会の参加者やファシリテーター・板書経験者を地方ブロック会でもファシリテーターや板書として配置し、新任期の保健師も参加しやすい雰囲気づくりに努めた。 6 開催の前にポートフォリオを配布し、参加者一人一人が目的目標を設定し研修に臨めるようにした。 7 当日の記録はスマートフォン等での撮影だけで、事後の負担の軽減を図った。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 3 ② 1 └──┬──┬──┘
③数多くの保健師の参加が得られたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑧プログラム内容は参加者に適したものだったか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4 ③ 2 1 └──┬──┬──┘
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新任期保健師の事例提供があり、これまでの活動をまとめて報告し、多角的視点からディスカッションをする中で広い視野に立ち対象者の理解を行うことの重要性に気づくことができていた。 ・ 行政の保健師以外の新任期保健師の参加はなかった。実数も少ないことが予想され、今後行政以外の分野での新任期保健師へのコンタクトの取り方や把握については課題である。 ・ 中央での全体会と近くの地方ブロック会を開催した。休日および平日の開催等それぞれの実情に応じて開催場所や日程を調整し参加しやすい環境づくりに配慮を行った。 ・ 安心安全な場での事例検討会については、討議の前に留意点として特に説明の時間を割いたため全員参加・協同について実践できていた。 ・ 事例提供者の事例検討会後の満足度は高かった。多角的な意見をもらえ、それぞれが、自 	

身が担当であった場合を想定し親身になってサポートティブな雰囲気グループワークができていたことが要因ではないかと考える。

- ・1回の体験だけではスキルアップは難しいため、職場での事例検討会や研修会を通して組織全体のスキルアップのためのしくみづくりが必要と考える。

- ・母子保健と生活習慣病の2つのテーマを中心に事例検討会を実施したが、生活習慣病の事例提供者の確保に苦勞した。生活習慣病プラス精神疾患や知的障害等の困難を理由に事例提供に取り上げられた事例も多かった。また、委託事業や単発での訪問などの影響があり、複数回、担当保健師が中心になってかかわる事例となると少ないことが考えられ、担当者から委託先への研修を企画するなど事例検討会の定着に向けた各組織の特色を踏まえた工夫が必要となるものと考えられた。

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	④ 3 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	④ 3 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	④ 3 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 ③ 2 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	④ 3 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	④ 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 ③ 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	④ 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	④ 3 2 1

考察

・全体会と地方ブロック会までの間に自組織で事例検討会を開催した、もしくは自組織で定例の事例検討会を企画したなどの具体的実践活動につながった報告があった。

・市町連絡協議会と共催で事業開催することによって、お互いの活動を知り、それぞれの研修会にこれまで未参加の方が参加する機会となった。

・参加者の反応は概ね良好で事例検討会を自組織で開催したいという意向がみてとれた。しかし、保健指導を自身の言葉で語るという大目標に結び付けることに関しては難しかったようである。事例検討会の開催によって新任保健師だけでなく、全体のスキルアップを図る必要性を認識できたが、さらに俯瞰して保健師活動とは何かについて十分に考えるには至らなかった。よって少し目標を研修の中身に近づけたものにするか、大目標に対して考える時間を確保するなどの配慮が必要であったと思われる。

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 ③ 2 1 └──┬──┬──┘
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	④ 3 2 1 └──┬──┬──┘
考察	
<p>・市町連絡協議会との共催とし、全体会と地方ブロック会を実施した。全体会で地方ブロック会の運営にかかわる役員等向けにファシリテーターや板書の役割に関する学習会を開催日の午前中に実施するなど二つの会を意識的に分けて実施することができた。</p> <p>・新任期保健師の事例発表および参加もあったが、全体的には新任期以外の対象者の参加が多く、組織全体のスキルアップとして位置づけられた。</p> <p>・周知については、産業保健分野も含め関係機関に広く周知を行った。産業保健分野の参加は少なかったが、本研修会実施後に独自で同様の研修会を企画したとの意向も聞かれたことから、多様な分野への波及効果はあったと考える。</p> <p>・市町連絡協議会および保健師長会等と周知することで看護協会非会員への周知や、看護協会の活動内容紹介の場となることができ、これまで参加したことのない保健師等へも広く呼び掛けることができたと考える。</p>	

まとめ

1回の研修で終わらず、自組織内で定期的に事例検討会を開催する機運やしかけが重要である。今回の保健指導 MTG の開催以前から定期的に自主的な事例検討会を開催しているところもあれば、今回の保健指導 MTG が契機となり事例検討会をやってみた組織や、従来からある定期的な勉強会に組み入れようとしている組織もみられた。事例検討会の回数を重ねる中で、ファシリテーターの役割や、参加者の役割、現状に関する質問の仕方やアセスメントについてこれでよかったのだろうか、ほかに方法はなかったのだろうか等のさらなるステップアップに向けての疑問や悩みが生じていることがわかった。波及効果として今回の保健指導 MTG をきっかけにして事例検討会が各組織で開催されている動きがあることは評価できるので今後の開催の実績や、事例検討会運営にかかわる課題や疑問などを受けてニーズに応じた保健指導 MTG を継続的に開催していく必要があると考えられた。

愛知県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 事例検討を通して、保健指導のスキルアップを図る
- ② 愛知県内に勤務および在住する各領域の保健師の連携強化と交流を深める

目標

- ① 日看作成の「ファシリテーターの手引き」に基づき、事例検討の方法を学ぶ。
 - ・事例提供の目的、意義、ファシリテーター、板書担当、事例提供者の役割を学ぶ。
- ② 地域・職域で連携につながる具体的な支援内容を明確化する

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/11/19 1時間程度 (11:00-12:00)	【実施者】 職能委員： 5名 講師： 1名 実践事例発表者： 2名 コーディネータ： 名 計：8名
	【実施理由】 事例発表者との事前打ち合わせ 当日の職能委員の役割を確認し、運営を速やかに行えるようにするため
	【内容】 事例発表内容の確認 地域取組み報告の内容の確認 当日の流れの確認 役割分担の確認

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

(例)会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

- ①愛知県看護協会会員個人への案内送付
- ②職能委員からのPR

(2)非会員を含めた取り組み

(例)職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

- ①自治体への案内通知
- ②愛知産業保健総合支援センターにて「保健指導ミーティング」案内の配布依頼
- ③日本産業衛生学会東海地方会 看護部会研修会にて「保健指導ミーティング」案内の配布

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

開始時刻	内 容	関連する目標
13 : 30	主催者あいさつ、オリエンテーション	保健師職能委員長あいさつ
13 : 35	講義 「アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き」に基づいた事例検討のノウハウ 愛知県新城保健所次長 榊原るり子氏	日看作成の「ファシリテーターの手引き」に基づき、事例検討の方法を学ぶ。 ①事例提供の目的、意義、 ②ファシリテーター、板書担当、事例提供者の役割を学ぶ。
14 : 15	事例発表「職域の立場から問題提起」 <三菱重工業（株）> 市丸舞衣子 保健師職能委員	発表された事例を基に、職域の健康課題について理解する
14 : 35	地域の取り組み報告 健康マイレージポイントの活用 清須保健所 三原亜矢巳氏	健康マイレージポイントの概要と職域への働きかけについて理解する
14 : 45	各グループにて事例発表を通して意見交換 1グループ 7～8名で7グループ ① 事例検討を深める ② 「保健師の連携を深めるために、地域・職域それぞれの立場に対してどのようなアプローチが必要か？」をテーマに対応を話し合う	・職域からの事例（健康課題）を基に、事例検討の方法を体験し学ぶ。 ・事例検討の最終目標、「地域・職域それぞれの立場に対してどのようなアプローチが必要か？」具体策をたてる
15 : 45	グループワーク発表	・各グループからの具体策を理解し、今後の活動に生かす。
16 : 15	グループワークを受けての助言 愛知医科大学看護学部教授 坂本真理子氏	・講師からの「管内の分野の違う保健師がどのように連携していくのか」「地域の医療機関や社会資源をどのように活用し、連携していくのか」助言を基に事例を整理する。

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域（産業）： (2)事例発表者の保健師経験年数：約 12年 (3)発表タイトル：仕事に家事に手がいっぱい、でも自分の健康も気になるワーキングマザー

グループ討議

構成	7～8人 × 7グループ
討議のテーマ	事例を基に、「保健師の連携を深めるために、地域・職域それぞれの立場に対してどのようなアプローチが必要か？」について対応策を話し合う。
討議で工夫した点	グループメンバーを地域・産業どちらも含めた構成にする グループ内全員が、必ず発言をするようにする

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
① 新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 3 ② 1
② 様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 3 ② 1
③ 数多くの保健師の参加が得られたか	④ 4 3 2 1
④ 目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	④ 4 3 2 1
⑤ 目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 4 3 2 1
⑥ グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 4 3 2 1
⑦ ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	④ 4 3 2 1
⑧ プログラム内容は参加者に適したものだっただか(参加者の反応等からの評価)	④ 4 3 2 1
⑨ プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4 ③ 2 1
考察	
<p>・ 新任期の保健師の参加は、少ない。会員の確保も含めて、新任期保健師への働きかけが課題である。</p>	

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 ③ 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 ③ 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	④ 3 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	④ 3 2 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	④ 3 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	④ 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	④ 3 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	④ 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	④ 3 2 1
考察	
<p>・在宅保健師の会、加入していない自治体の保健師の参加も複数あり、今回で保健師同士の横のつながりが図れた。</p>	

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
考察	
<p>・ 県内の違う分野の保健師が多く参加して、事業開催の意義はとて大きいものであった。</p> <p>・ しかし、新任期保健師の参加が少なかった。加入促進も含めて、課題が多い。どのように勧奨するのが課題。県内全体への周知方法が難しい</p>	

まとめ

- ・産業、県、市町村、学校、包括支援センター等など様々な機関の多くの保健師の参加があった（非会員含む）。
- ・新任期にこだわらず、保健師が定期的に交流する場が必要である。新任期にこだわらずに活用できるシステムがほしい。中堅期・管理期保健師も事例検討方法を学ぶ必要がある。世代を超えた交流が必要と思われる。
- ・年数回事例検討会を開催してほしいと希望が上がっている。ブロックごとの開催を検討してもいいのではないかと。看護協会だけでなく、県型保健所の主催研修会でも活用してほしい。
- ・今回会場が名古屋駅前とり地位条件が良かったために参加者が多かったと思われる。しかし、会場費が高く、予算の確保が難しい。
- ・各グループのファシリテーターを県所属の保健師に、事例提供を産業保健師にそれぞれ依頼したが、ファシリテーターの力量や事例提供の方法によりグループ毎に進行内容や事例検討の理解に差が出ており、研修の質を保つことの困難さを感じた。
- ・今後の保健師職能委員の研修や交流会の企画に役立て、各職場の連携が生まれるようにしていきたい。

三重県

保健指導ミーティングの企画

目的

本人及び家族の課題解決のため、情報整理、アセスメント、具体的な支援策を検討する手法を学ぶことにより、個別事例への支援や保健指導のスキルアップの動機づけを図る。

目標

- ① 新任期保健師が自身の実践を振り返り、今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- ② 指導保健師が事例検討のファシリテータとして実践できる力を身につけ、新任保健師に対する今後の指導に活かすことができる。
- ③ 事例検討会の必要性を感じ、所属内で実践したいと思うことができる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/9/10 2時間程度 (10:00-12:00)	【実施者】 職能委員：6名 計：6名 【実施理由】 ・保健指導ミーティング（事例検討会）実施に向けた企画及び検討 【内容】 ・事業計画（案）、共催団体の確認 ・プログラムの検討（デモンストレーション内容、事例の選定方法、必要な人材の確保、グループワークの進め方 等々） ・案内チラシ（案）、アンケート（案）及び周知方法の検討
保健指導ミーティング事前打合せ	
【実施日】 H28/11/5 2.5時間程度 (9:30-12:00)	【実施者】 職能委員：9名、講師：1名、ファシリテータ（板書）：4名 計：14名 【実施理由】 ・保健指導ミーティング（事例検討会）の目的を達成するため、それぞれの役割の確認及び検討会進行の確認 【内容】 ・事業概要の説明、事例検討会デモンストレーションの実施、検討会の進め方についてプログラム・役割・アンケート等の確認、検討事例の共有を行った。 ・その他（看護フェスタ事務連絡、次回職能委員会の周知）
保健指導ミーティング事前打合せ（当日）	
【実施日】 H28/12/3 0.5時間程度 (9:30-10:00)	【実施者】 職能委員：8名、講師：1名、実践事例発表者：2名 ファシリテータ（板書）：5名 計：16名 【実施理由】 ・保健指導ミーティング（事例検討会）が円滑に進められるよう、スケジュール等の最終確認を行う。 【内容】 ・本日のスケジュール確認、事例提供者・ファシリテータの最終打合せ

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

(例)会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

- ・ 県協会ホームページによる周知を行った。
- ・ 文書送付による周知を行った。
- ・ 様々な分野（県・市町・地域包括支援センター・医療・教育）から職能委員が選出されており、各職能委員を通して周知を行った。

(2)非会員を含めた取り組み

(例)職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

- ・ 全国保健師長三重県支部、県保健師協議会、市町保健師協議会と共催することで、各団体と連携して県内に幅広く周知を行った。
- ・ 参加申込のない保健所へは、保健師業務担当者を通じて再度参加を勧めた。

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会 看護協会長挨拶 保健師職能委員長挨拶	
10:10~11:10	講演「事例検討会の意義と進め方」 講師 三重県立看護大学 地域交流センター 地域連携特任教授 前山和子 先生	② ③
11:10~12:00	事例検討会 デモンストラーション（職能委員実施）	③
12:00~13:00	休憩	
13:00~14:30	事例検討会の実践 発表者 事例1：市保健師、事例2：市保健師、 事例3：町（包括）保健師 ファシリテータ 事例1：保健所保健師 2名 事例2：大学保健師及び市保健師 事例3：市（包括）保健師 2名	② ③
14:30~14:45	休憩	
14:45~15:45	グループ討議・発表 発表者：事例1：保健所保健師 事例2：保健所保健師 事例3：町保健師	① ③
15:45~16:00	まとめ（地域連携特任教授 前山和子 先生）	① ③
16:00	閉会	

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：	事例1 行政（市）保健師 事例2 行政（市）保健師 事例3 行政（町包括）保健師
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 年	事例1 約30年 事例2 約25年 事例3 約20年
(3)発表タイトル：	事例1 記憶障害のため内服や金銭管理ができず、夫に対し物盗られ妄想があるIさん 事例2 記憶障害のため内服や金銭管理ができず、夫に対し物盗られ妄想があるIさん 事例3 精神障害の息子（A）からの虐待により心神喪失状態の父からの相談 ～この家族が安心して地域で生活するための支援について～

グループ討議

構成	12人 × 3グループ
討議のテーマ	・参加して、学んだこと、気づいたこと ・現場で実践するにあたっての課題
討議で工夫した点	・2事例を3グループで検討した。1、2グループでは、同じ事例をそれぞれのグループで検討し、参加者は年齢や所属が偏らないよう、様々な意見が聞けるように工夫した。3グループは包括からの事例であったため、関連する部署に勤務した経験の保健師を中心にメンバーを揃えた。 ・例年と同様に、事例検討会実践とグループ討議の間には休憩を入れることで緊張感がほぐれる様にした。休憩では、ほぼ年齢ごとに集まり意見交換（雑談含む）されており、気持ちがリラックスしたところでグループワークに入る事が出来た。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 3 ② 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 ③ 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	4 3 ② 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	④ 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	④ 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	④ 3 2 1
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4 ③ 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっただか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1
考察	
<p>・ 3グループで事例検討を行った。1、2グループでは、同じ事例をそれぞれのグループで検討した。参加者は年齢や所属が偏らないよう、様々な意見が聞けるように工夫した。3グループは包括からの事例であったため、関連する部署に勤務経験のある保健師を中心にメンバーを揃えた。初めてのファシリを経験した新任保健師の意見として、戸惑う事も多かったが、ケースをしっかりと把握しなければいけないとの気づきを得られた。自由に意見を出すグループや指名順に意見を出すグループと様々であったが、いずれのグループでも熱心に意見交換が出来ていて良かったと思われる。</p>	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 3 2 1 4
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 3 2 1 3
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 3 2 1 4
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 3 2 1 3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 3 2 1 4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 3 2 1 4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 3 2 1 3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 3 2 1 4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 3 2 1 3
考察	
<ul style="list-style-type: none"> 若い保健師だけで既に実践している市においても、今回の事例検討では幅広い年齢層の保健師の意見が聞けて良かったとの意見が聞かれた。また、同じ事例でも報告する保健師が何を大事にしているかで伝わり方が変わることを経験した。事例について共通認識をもつ事の大切さを改めて感じる事が出来たとの意見も聞かれ、多くの気づきが得られる事例検討となったと考える。 参加者の反応としては、上手に言葉に出来なかったが、知識経験がなくても事例検討会への参加で成長できると感じた。経験により考え方に偏りがある事に気づいた。みんなの考え方がわかって、自分一人だけが悩んでいるのではないとわかりホッとした。板書を見ながら整理・把握ができ、持っていないケースが勉強できる。具体的なスキルがみかける、同じ方向を向ける、手法として学べる。等々の意見が聞かれた。 	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	④ 3 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 ③ 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	④ 3 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	④ 3 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	④ 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	④ 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	④ 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	④ 3 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	④ 3 2 1
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・研修会が重なり、産業分野保健師の参加が得られなかったのは残念であった。 ・参加者の1/3が新任期であり、事例検討会の良さを感じる意見も聞かれたため良い企画であったと思われる。 ・実践する前に講義やデモンストレーションを行ったため、イメージしやすかったとの意見が聞かれた。 ・ファシリテータ1名(2グループ)が都合により参加できなくなった為、突然であるが役割変更を行う必要があったが、当日ミーティングを行い戸惑うことなく実施することが出来た。 	

まとめ

- ・ 職能委員からは、デモンストレーション抜きで実施する方向でどうかとの意見が上がったが、参加者アンケートではデモンストレーションがあつて分かりやすかったとの意見が上がっていた。時間的に参加しやすい様、半日で実施可能か簡単な方法を探りたい。
- ・ 昨年度より参加者数が少なかったが、保健所独自で講師を呼んで研修会を開催した保健所や、多職種と既に実施している市もあり、3年間の取組成果を感じる場所である。
- ・ 保健指導ミーティングでの整理方法は、記録作成等にも応用できるとの意見が聞かれた。大事な視点であり、時間がないから（事例検討）出来ないと言うのではなく、考え方の整理を各職場で取り入れて頂けるような働きかけが大事であるとする。

和歌山県

保健指導ミーティングの企画

目的

新任期保健師（以下、新任保健師）及び新任保健師を指導する保健師（以下、指導保健師）を対象に、保健師活動における保健指導のスキルアップを図り、保健指導の質の向上を目指すことを目的に実施する。講演と日本看護協会の「実践力UP事例検討会」の手法を用いて、保健指導の過程を、基本から学習できる様にする。また、参加者ひとり一人が日頃行っている自らの実践を振り返り、今後の活動に意欲が持てるようにする。

さらに、事例検討をOJTとして位置づけ定期的に事例検討を行える職場づくりができるようにする。また、和歌山県内に勤務する保健師が一同に会することにより、参加者同士が交流し、保健師間の連携が促進できるようにする。

目標（到達度）

新任保健師及び指導保健師

- ① 保健指導の基本について理解できる。
- ② 自らの今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- ③ 自らが取り組むべき保健指導の課題が明確になる。
- ④ 課題解決に向けての行動目標や行動計画が明確になる。
- ⑤ 個別の保健指導をしっかりとできることが、地域課題の取組みにつながることや、その意義を理解できる。
- ⑥ 保健師間の連携が促進される。
- ⑦ 新任保健師あるいは指導保健師の気持ちが理解できる。
- ⑧ 職場で事例検討を実施する意義を理解し、今後に繋げることができる。

指導保健師

- ⑨ 新任保健師に対する今後の指導に活かすことができる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健指導ミーティング実行委員会	
【実施日】 H28/10/8 3時間程度 (13:00-16:00)	【実施者】 職能委員：6名 コーディネーター：1名 県行政関係者：1名 計：8名
	【実施理由】 事業実施に向けての意思統一を図る。 事業の円滑な遂行を図るため、プログラム等、内容の検討を行う。
	【内容】 ① タイプIの概要について ② 事業の名称・開催日について ③ 目的、目標の設定について ④ 実行委員会開催日程について ⑤ 案内文内容、周知について ⑥ 講師、プログラムについて ⑦ 事業内容の検討について

保健指導ミーティング実行委員会	
【実施日】 H28/11/22 3時間程度 (13:00-16:00)	【実施者】 職能委員：7名 コーディネーター：1名 県行政関係者：1名 計：9名
	【実施理由】 事業を円滑に推進するため、当日の進行、準備等について打合せを行う。 実際の事例を用いて事例検討を、出席者で行い、時間、内容の調整を行う。
	【内容】 ① 事例検討の実際「実践力UP事例検討会の方法を取り入れて」実施 ② 留意点、タイムスケジュールについて ③ 講師、事例提供者について ④ 当日の役割分担、準備物品について ⑤ アンケート作成

周知

<p>多様な領域で働く保健師(地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等)へ周知するために工夫したこと。</p>
<p>(1) 会員に対する取り組み</p> <p>① 職能集会で、本事業を紹介。</p> <p>② 会員や施設代表者等に個別通知。</p> <p>③ 職能だよりに掲載。</p> <p>④ 県看護主管課からメールによる周知。</p>
<p>(2) 非会員を含めた取り組み</p> <p>① 会員・非会員を問わず施設代表者に通知。</p> <p>③ 現職能委員により参加を促進。</p> <p>④ 県看護主管課からメールによる周知。</p>

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
13 時	開会 和歌山県看護協会保健師職能委員長	
13 時～14 時	「米原市における生活習慣病予防の取り組みとその背景」 滋賀県米原市健康づくり課 藤井朋子保健師	① ② ③ ⑨
14 時～ 14 時30分	講義 事例検討の進め方 和歌山県立医科大学大学院 保健看護学研究科 山田和子先生	① ② ③ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨
14 時45分～ 16 時 00 分	グループ討議 「実践力をUPする事例検討」 コーディネーター 和歌山県立医科大学大学院 保健看護学研究科 特任教授 山田和子先生 話題提供 印南町役場 原 由季子保健師 和歌山市地域保健課 大端 聡子保健師	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
16 時00分～ 16 時30分	発表・全体討議・まとめ アンケート記載	② ③ ④ ⑥ ⑧ ⑨
16 時30分	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 2 5 年 (3)発表タイトル：独居の 7 4 歳高齢者で脳出血の再発予防のための生活習慣を改善させたい事例
実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 4 年 (3)発表タイトル：社会経験・知識の乏しい若年産婦と育児に関する支援力の低い家族への社会的支援・介入方策を検討したい事例

構成	12～13人 × 2グループ
討議の テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討(実践力 UP 事例検討会)実施 生活習慣病予防の事例 母子保健の事例 ・事例検討実施後の振り返り 事例検討を通じての気づき 今後の各職場における事例検討の実施について
討議で 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会「実践力 UP 事例検討会」を用いて実施するにあたり、実行委員が事前に事例検討を行い、内容や時間を調整した。また、ファシリテーターや板書係は事前学習をおこなった。 ・全参加者で2グループを編成し、各グループに1事例の提供で検討をおこなった。事例提供者がグループにいて、質問がスムーズにできた。 ・新任期、中堅期、管理期保健師が同じグループで検討したことにより、事例検討の目的が共通認識できた。 ・最後に各グループから発表し、参加者全員で共有した。 ・最後に講師から講評をいただき、理解を深めることができた。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 (3) 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 (3) 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	4 (3) 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	(4) 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	(4) 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	(4) 3 2 1
⑤ ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	(4) 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか(参加者の反応等からの評価)	(4) 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	(4) 3 2 1
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な年代及び経験の保健師の参加があり、事例検討の方法について、学ぶ機会を持てた。 ・コーディネーターの時間的な進行管理が良かったため、時間内に今後の方向性まで検討することができた。 ・ファシリテーターの進行が良かったため、円滑に発表することができ、多くの意見が出た。 ・保健師がよく関わる生活習慣病の事例を中心に事例検討会を実施したので、意見が出やすく、参加者一人ひとりが発言しやすかった。 ・事例検討のみではなく、グループで振り返りをするにより、事例検討の意義をより深めることができた。 	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 3 2 1 4
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 3 2 1 4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 3 2 1 3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 3 2 1 3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 3 2 1 4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 3 2 1 4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 3 2 1 3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 3 2 1 4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 3 2 1 4
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討について事例提供者から具体的な内容を聞きながら行うことで、十分な討議できた。 ・事例検討をすることで、自分が関わった事例であるかのような擬似体験ができ、今後の事例対応に活かせると、参加者からは好評であった。 ・新任期、中堅期、管理期保健師が同じグループであったので、新任期保健師は世代による違った視点を学ぶことができた。 ・アンケート結果より、「今後のスキルアップへの動機づけができましたか」との質問に対して、「非常にそう思う」、「ややそう思う」と回答した者が合わせて93.5%であり、また、「グループ討議は、ご自身にとって役に立つ内容でしたか」との質問に、「非常にそう思う」、「ややそう思う」と回答した者を合わせると100%で、参加者の満足を得ることが出来たと考えられる。 ・県行政機関と周知や人材育成に対する協力関係が得られた 	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 (3) 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	(4) 3 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	(4) 3 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	(4) 3 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	(4) 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	(4) 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	(4) 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	(4) 3 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	(4) 3 2 1
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会のメンバーは、職能委員に行政、教育の各分野のメンバーを加えて、多くの分野から参加できるように配慮した。企画の段階から十分検討し、意思統一を図りながら実施体制を整えたので、当日マンパワーが不足することもなく、また、事例提供者も今回の意図を充分理解してもらっていたのでスムーズに運営できた。 ・ 目的、目標にあった実施内容を企画することができた。 ・ 最初に、「米原市における生活習慣病予防の取り組みとその背景」の講演会を実施し、個々のデータに基づいた保健指導の重要性を学んだ。その後の事例検討においても、事例の身体的状況を分析する上で、検査データの読み取りの重要性を再認識できた。 ・ グループワークでは、新任期、中堅期、管理期保健師が同じグループであり、世代をこえた意見交換ができた。また、各グループの話し合いの内容を報告することで互いに共有しあうことができた。 ・ 県行政機関と周知や人材育成に対する協力関係が得られた 	

まとめ

- ・保健師がよく関わる生活習慣病の事例を中心に事例検討会を実施したので、意見が出やすく、自分自身の関わりについて振り返ることが出来た。
- ・新任保健師の多くは、母子の事例と関わっていることが多く1グループは、母子の事例検討を行った。
- ・「支援に困っていたので参考になった」、「効果的な支援につながる事例検討の方法を学べた」、「深くケースを掘り下げて考えることができ楽しかった」「自分の職場で取り入れたい」という意見があり、今後、自分の職場で、日常業務の中に事例検討を取り入れていく上での具体的手法の獲得に結びついた。
- ・新任保健師は世代による違った視点を学ぶことができ、アセスメントの実力UPの一助となったと考えられる。

福岡県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 保健指導の実践力を向上するために、事例検討会の実施を学び、活用できるようにする。

目標

- ① 新任期保健師が事例検討会を通じて事例の情報の整理とアセスメントができる。
 ② 実践力アップ事例検討会のやり方を学ぶ（体験する）。
 ③ 今後の実践力アップ事例検討会実施の動機を持つ。
 ④ 事例検討会の振り返りにより新任期及びプリセプター保健師が交流を深めることができる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/11/12 2時間程度 (17:30-19:30)	【実施者】 職能委員：8名 講師：1名 実践事例発表者：1名 コーディネータ：0名 計：10名
	【実施理由】 職能委員が事前研修をおこない保健指導ミーティング（事例検討）を理解する
	【内容】 実施経験者を講師に招いての研修 茨城県つくば市：小野村順子先生
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/12/17 2時間程度 (10:30-12:50)	【実施者】 職能委員：7名 講師：0名 実践事例発表者：3名 コーディネータ：1名（職能委員が兼務） 計：11名
	【実施理由】 ・事例検討会のための事例提供の準備、方法を伝えるため
	【内容】 ・事例提供の仕方 ・事例提供に関わる倫理的配慮 ・事例フォームへの事例のまとめ方について（A4 1枚程度） ・事例提供者の不安の緩和
保健師職能委員会	
【実施日】 H29/1/14 2時間程度 (10:30-12:30)	【実施者】 職能委員：8名 講師：0名 実践事例発表者：6名 コーディネータ：1名（*職能委員兼務） 計：15名

	【実施理由】 研修目的が達成できるよう最終打ち合わせをおこなう
	【内容】 事例提供者・ファシリテータ、コーディネータのとの最終打ち合わせ タイムスケジュールの確認など

周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

- ・福岡県看護協会ホームページ
- ・福岡県内の行政、企業、その他関連分野へのチラシの配布
- ・職能委員会からの声掛けにより、周知

(2)非会員を含めた取り組み

- ・福岡県看護協会ホームページ
- ・福岡県内の行政、企業、その他関連分野へのチラシの配布
- ・職能委員会からの声掛けにより、周知

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

研修プログラム	時間	関連する目標
オリエンテーション・担当理事挨拶・委員長挨拶	13:00～13:05	
1 グループ内での自己紹介 (15分) ※名刺持参	13:05～13:20	①②③
2 インTRODクシヨン (55分) 「実践力 Up 事例検討会のすすめ方」 全体ファシリテータ 福岡県看護協会保健師職能委員 猪谷 生美 氏 ・DVD の視聴 (25分)「事例検討会 - デモンストレーシヨ ン」 (公益社団法人 日本看護協会 健康政策部 保健師課) ・教材 「実践力 UP 事例検討会 実践の手引き」 ～p 38	13:20～14:20	
3 実践力アップ事例検討会 (80分) 5グループ Group「テーマ」 (事例提供者) [ファシリテータ] A 「生活習慣病予防」(那珂川町 古賀義将さん) [近見] B 「高齢者包括」 (北九州市 木道あやさん) [山口] C 「母子保健」 (久留米市 中村理恵子さん) [菊本] D 「メンタルヘルス」(沢井製菓 塚本真奈美さん) [柴戸] E 「メンタルヘルス」(福岡県筑紫 鶴田桂子さん) [松尾] *事例提供補助者・提供者とりまとめ(柴戸 美奈さん) 板書係:各グループで設定(松浦、吉田 他) 全体ファシリテータ(兼タイムキーパー):猪谷、竹廣 #各グループ8人(ファシリ含)は必要なので声かけを 事例提供者と同じ職場の方が同じグループにいるのが理想的	14:30～16:20	①②③④
4 まとめ (10分) アンケート記入	16:20～16:30	
閉会の挨拶、アンケート回収	16:30	

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：	
Group 「テーマ」	（事例提供者）
A 「生活習慣病予防」	（那珂川町 古賀義将さん）
B 「高齢者包括」	（北九州市 木道あやさん）
C 「母子保健」	（久留米市 中村理恵子さん）
D 「メンタルヘルス」	（沢井製菓 塚本真奈美さん）
E 「メンタルヘルス」	（福岡県筑紫 鶴田桂子さん）
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 3 年	
(3)発表タイトル：	
A：動脈硬化性疾患のリスクが重複している事例	
B：健康面・衛生面・金銭面の自己管理が困難な状況にある独居高齢者の事例	
C：精神疾患を抱える妊婦への支援について	
D：メンタルヘルス不調を訴える方の休業を繰り返さないための支援の方法について ～発達障害を疑うケース～	
E：近隣や関係機関への妄想を抱えながら地域で单身生活を送っているケース	

グループ討議

構成	約10人 × 5グループ
討議のテーマ	事例提供された5事例を5グループで、看護協会の推進する事例検討会のやり方で事例検討を各グループで行った。
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会を「安全空間」にて、できるように配慮した。看護協会のグラウンドルールを活用した。 ・1事例につき1名のファシリテータと、板書係を付けて、各グループの事例検討が円滑に進むようにした。 ・ファシリテータも未経験者もいたため、事前に学習をした。 ・全体ファシリテータを2名フリーで配置し、事例検討の進行が難しいグループのファシリテータをサポートした。 ・時間管理を行い、事例のアセスメントまでにとどまらず、支援までに行けるように全体ファシリテータが配慮した。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 <input checked="" type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	<input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
③数多くの保健師の参加が得られたか	<input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4 <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4 <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	<input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4 <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
⑧プログラム内容は参加者に適したものだったか(参加者の反応等からの評価)	<input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	<input checked="" type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/>
考察	
<p>事前に事例提供者と打ち合わせをしており、事例提供者にはA4 1枚程度に事例をまとめていただいていたので、スムーズに発表はできていた。職能委員の努力により多方面から新任期保健師を集めることができた。参加者の発言はとても多かった。話が滞るようなグループは、各グループのファシリテータ、全体のファシリテータが配慮し、参加者全員が発言できていた。プログラムの内容については、事後アンケートの結果を見ると参加者から、好評を得ていた。</p>	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 ③ 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 ③ 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 ③ 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 ③ 2 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 ③ 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 ③ 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 3 ② 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	④ 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 ③ 2 1
考察	
<p>アンケート結果から、参加者の満足感が高かった。しかし、新任保健師がどのくらい実践を振り返れたのか、プリセプターが新任保健師へのかかわりをどのくらいまで振り返れたかは、「ややできた」程度にとどまっていると思う。事例検討に一生懸命になっていたので、振り返りの時間をもっと作れるとよかったと思う。最初は、振り返りのプログラムを予定していたが、事例検討が長引くため直前にプログラム修正をした。よって、保健指導ミーティングは、3時間30分では時間的に不十分とわかった。次回は、もっと長い時間でのプログラム構成を考案したい。</p> <p>職場での事例検討への展開や、今後事例検討会の学習会実施に結びついたことは、研修の波及効果として成果があったと考えられる。</p>	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 (3) 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 (3) 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	(4) 3 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	(4) 3 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 (3) 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4 (3) 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4 (3) 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 (3) 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 (3) 2 1
考察	
<p>初めての保健指導ミーティングの開催であったため、福岡県看護協会職能委員間でも目的、目標、特に実施の方法を共有することが難しかった。今後、今回の実施方法や反省点を含め、次回につなげたいと考える。初めての開催であったがゆえに、保健師職能で協力し、事例提供者の選定や、職能委員がファシリテータの学習をするなど団結して関わることができた。</p> <p>事業の目的については、福岡県の新任期の問題をもっと把握したうえで設定したかった。一般的な目的、目標になったと思う。また、福岡県の新任期がどのような研修を望んでいるのか事前に把握したかった。今後、この2点を把握したうえで、福岡県独自の保健指導ミーティングを計画したいと考えている。</p> <p>プログラムの構成は直前に修正し、事例検討に時間を費やせるため時間配分を長くした。結果的にこのほうがよかったと思う。</p>	

まとめ

・看護協会のホームページにある、事例検討会のやり方や、ファシリテータの手引き、DVD など非常に役に立った。事例検討会の雰囲気などについては、DVD を保健指導ミーティングの参加者にも見ていただきました。そうすると実際にやる事例検討会のやり方が参加者にもわかりやすく良かったです。ありがとうございました。今後とも、ホームページに残していただけるとありがたいです。参加者にも日本看護協会のホームページを紹介しています。

・事例提供を行う際に、自治体から個人情報の観点で心配があるとのことがあったため、倫理的配慮をいたしました。事例提供をいただく際と、当日の保健指導ミーティングで参加者に説明いたしました。

佐賀県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期及び指導保健師（プリセプター）の保健指導の力量の向上を図る。
- ② 職域を越えた保健師間のネットワーク形成を図る。

目標

- ① 新任期保健師が早期の段階で自らの実践を事例にし、事例検討を行うことができる。
- ② 保健指導の実践事例を通して自身の実践を振り返り、今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- ③ 指導保健師等は、新任期保健師とともに実践事例の検討に加わることで、新任期保健師の課題を捉え、今後の指導に活かすことができる。
- ④ 領域を超えた新任期保健師及び中堅期・管理期保健師間のネットワークの形成が図られる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/9/5 1.5時間程度 (14:00-15:30)	【実施者】 職能委員：7名 看護協会：1名 <div style="text-align: right;">計：8名</div>
	【実施理由】 保健指導ミーティング企画及び実施要領（案）の検討を行うため
	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・講師の決定 ・事例提供者、ファシリテータの依頼について ・開催案内の送付について
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/10/28 1時間程度 (14:00-15:00)	【実施者】 職能委員：6名 看護協会：1名 <div style="text-align: right;">計：7名</div>
	【実施理由】 当日の手順の最終確認を行うため
	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な手順の検討、必要物品の確認、役割分担の決定について ・アンケート内容の確認について
保健指導ミーティング事前打合せ	
【実施日】 H28/10/28 1時間程度 (16:00-17:00)	【実施者】 ファシリテータ 4名 職能委員：6名 看護協会：1名 <div style="text-align: right;">計：11名</div>
	【実施理由】 当日の運営を円滑に実施するため
	【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討の進め方、ファシリテータの役割等について ・事例提供者との打ち合わせについて

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

(例)会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

- ・ 県医務課が主催する現任教育の一環としても実施したため、県医務課と看護協会の双方から開催通知を送付。
- ・ 会員名簿に基づき開催通知を送付。
- ・ 佐賀県看護協会ホームページに掲載。

(2)非会員を含めた取り組み

(例)職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

- ・ 市町に県医務課と看護協会の双方から開催通知を送付。
- ・ 職能委員長による各統括保健師への周知と参加勧奨。
- ・ 職能委員による周知と参加勧奨。
- ・ 把握している非会員の保健師に開催通知を送付。

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
9:00	開会	
9:05～10:05	講演「保健指導や連携のためのアセッションスキル」 講師：久留米大学医学部看護学科 猪谷生美 氏	①②③
10:05～10:20	事例検討会の説明 説明者：佐賀中部保健福祉事務所 吉田由美 氏	①②③
10:20～11:20	グループ討議①「実践力UP 事例検討会」6G	①②③④
11:20～11:50	グループ討議②「事例検討会の振り返り」6G	①②③④
11:50～12:20	各グループ発表	①②③④
12:20～12:40	まとめ・講評 コーディネータ：猪谷生美 氏（兼講師）	①②③
12:40～	閉会・アンケート記入	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）： (2)事例発表者の保健師経験年数：約 年 (3)発表タイトル：

グループ討議

構成	12人 × 4グループ、13人 × 2グループ
討議のテーマ	A：母子保健「発達面が気になる母子への支援」 B：結核「自己中断歴のある結核患者への服薬支援」 C：母子・生活習慣病「高血圧、高血糖等自己管理が必要な疾患を抱えながら、初めての育児に取り組んでいる母親への支援」 D：結核・生活習慣病「結核、高血圧で治療中の男性への支援」 E：生活習慣病「特定健診で毎年積極的支援になる男性の生活改善支援」 F：母子保健・精神保健「精神疾患のある母親の子育て支援」

<p>討議で 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 新任期保健師の現任教育を兼ねており、事例提供者は新任期保健師とした。・ ファシリテータには事前打合せを実施し、検討会がスムーズに実施できるよう役割等を確認した。・ 「グラウンドルール」や「具体的な手順」を各グループのホワイトボードに張り付け、確認しながら実施できるようにした。・ 板書がスムーズにいくように板書係を各グループに2名ずつ配置した。・ 広い会場を使用し、隣のグループの声が気にならないように配置した。
----------------------	--

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	④ 3 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	④ 3 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	④ 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4 ③ 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4 ③ 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4 ③ 2 1
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	④ 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっただか(参加者の反応等からの評価)	④ 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	④ 3 2 1
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例検討会、振り返りのグループワークではほぼ全員が発言できており、保健指導の楽しさ、やりがいを感じた者も多く、再度実施して欲しいとの意見があった。 ・ 実践力UP事例検討会は参加者に解りやすく実施後の満足感、達成感が得られていた。 ・ 全参加者の半数以上が新任期保健師であり、保健指導のスキルアップを望んでいた。 	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 (3) 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 (3) 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 (3) 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 (3) 2 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 (4) 3 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 (4) 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 (3) 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 (4) 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 (4) 3 2 1
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・事例提供者(新任期)からは、「提供することで事例の振り返りと今後の支援へつなげていくことができた」という意見が多く出ていた。 ・新任期からは「今までの事例検討と違い自由に発言でき緊張せずに参加できた。経験者の意見も聞くことができスキルアップにつながった」という意見が多かった。 ・経験や職域の違いはあるが、事例検討会の実施によりそれぞれの事例について、共有し意見交換できたことは良かった。 	

<p>【評価基準】</p> <p>4. 非常にそう思う(とてもできた)</p> <p>3. ややそう思う(ややできた)</p> <p>2. あまりそう思わない(あまりできなかった)</p> <p>1. 全くそう思わない(全くできなかった)</p>
--

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	④ 3 2 1
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	④ 3 2 1
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 ③ 2 1
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 ③ 2 1
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	④ 3 2 1
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	④ 3 2 1
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	④ 3 2 1
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	④ 3 2 1
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 ③ 2 1
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職能委員会で実施の方向性を決定。協力者を交えて事前打合せ会を1回実施し準備できた。 ・ 限られた時間を有効に活用するため、当日朝、最終打合せを行い、保健指導ミーティングの全体運営をスムーズに行うことができた。 ・ 研修等内容は、日本看護協会の実践力UP事例検討会モデルに習い、プログラムの構成・内容は適切で解りやすく目的を達成することができた。 ・ 企画当初から主要な講師が決定し、企画はスムーズであった。 ・ 参加者を確保するために県と協力して呼びかけを行い、多くの参加を得ることができた。 	

まとめ

- ・市町保健師は 20 市町中 13 市町から 39 名、県職保健師は全保健福祉事務所等から新任期と指導的立場の保健師 17 名の参加があった。新任期保健師のみ参加した市町もあったが、それ以外は、新任期と指導者双方の参加が得られた。また、今回初めて医療機関で勤務する 6 名の保健師の参加が得られ、関心の高さがうかがえた。
- ・保健師活動において県（保健福祉事務所等）と市町の役割分担により、日常業務で関わる事例が偏ってきている。特に新任期では他者の事例の検討をすることで、自己のアセスメント力を身につけと共に、事例をとおしてお互いの業務を理解しあうことができた。
- ・新任期保健師研修の一環として開催したが、参加者全員が自己のケースワークを振り返り保健師としての保健指導のあり方について学習することが出来た。
- ・従来の事例検討会は準備に時間を要するため事例提供者の負担が大きかったが、「実践力 UP 事例検討会」を初めて経験した保健師から「取り組みやすい」と今後も同研修を希望する意見が多く聞かれた。
既にここ数年継続して実施している職場も複数あり、県内各所での検討会実施が拡大、継続している。
この拡大により保健指導力の向上が期待できる。
- ・新任期保健師が積極的に発言できるように配慮したことで、事例の情報整理の仕方やアセスメント力が向上し、同時にケースワークへの実践力が高まった。

大分県

保健指導ミーティングの企画

目的

- ①地域で暮らす住民の生活環境や生活実態をみるのが公衆衛生看護活動の原点であることを理解する。
- ②保健師としてどの分野にいても、「人々の生活と命を守る」視点をもつことができる。

目標

- ①公衆衛生看護活動の原点を確認し、日頃の自分自身の保健指導を振り返ることができる。
- ②新任保健師が、自分自身の今後強化すべき保健指導スキルに気づく。
- ③指導保健師が、自身の保健指導を振り返りながら新任保健師の指導に活かすことができる。
- ④各領域の保健師同士が顔の見える関係づくりと交流が行える。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/10/15 1時間程度 (11:00-12:00)	【実施者】 職能委員：9名 看護協会：2名 計：11名
	【実施理由】 事業の目的、目標を共通理解し、事前準備、プログラムについて検討するため。
	【内容】 実施要綱、事業目的、目標、発表者、講師、コーディネータの役割の確認。 事前アンケートについて協議。
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/12/3 1時間程度 (11:00-12:00)	【実施者】 職能委員：7名 看護協会：2名 計：9名
	【実施理由】 当日プログラムについて協議し、事業目的を達成するため。
	【内容】 当日プログラムのねらいと内容、役割分担について協議。 事前アンケートの集計結果の報告。
事前打ち合わせ会	
【実施日】 H28/12/3 1時間程度 (13:00-14:00)	【実施者】 職能委員：2名 コーディネータ：1名 看護協会：1名 計：4名
	【実施理由】 事業目的・目標について共通認識する。 コーディネータの当日の役割について確認する。
	【内容】 実施要綱、事業目的、目標、発表者の発表内容と事前アンケートの集約結果を踏まえ、コーディネータの役割を確認。

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1)会員に対する取り組み

看護協会から会員・非会員に関わらず、保健師のいる施設全てに開催通知を送付し、周知した。

大分県看護協会ホームページ及び大分県看護協会研修手帳に掲載。

(2)非会員を含めた取り組み

看護協会から会員・非会員に関わらず、保健師のいる施設全てに開催通知を送付し、周知した。その後、各職能委員が新任期の保健師個々に事業の説明と事前アンケートの依頼、当日の出席勧奨を行った。

大分県看護協会ホームページの研修計画に記載。

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
09:15	開会	
09:20～9:30	事前アンケートの結果報告	①
09:30～9:50	実践報告 発表者：中津市地域医療対策課 近藤里香 氏 地域成人病検診センター 小石真奈美 氏	①、②
09:50～10:15	グループミーティング I	①、②、③、④
10:15～10:40	グループミーティング I 発表 コーディネータよりコメント	①、②、③、④
10:40～10:50	休憩	
10:50～11:40	講演「保健師が行う保健指導～わたしらしく健やかに」 講師：神品實子 氏	①、②、③
11:40～11:55	グループミーティング II	①、②、③、④
11:55～12:05	グループミーティング II 発表	①、②、③、④
12:05～12:20	講師、コーディネータよりコメント	①、②、③
12:20	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1) 事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：行政 (2) 事例発表者の保健師経験年数：約 2 年 (3) 発表タイトル：医療機関への受診行動に繋がられないケースへの関わり
実践事例発表の概要
(1) 事例発表者の所属領域（行政・産業・医療・福祉等）：健診機関 (2) 事例発表者の保健師経験年数：約 2 年 (3) 発表タイトル：取り組みを頑張っているが、本人の期待通りの結果が出ない対象への保健指導

構成	8～11人 ×11グループ
討議の テーマ	グループミーティングⅠ 新任期：実践報告の感想、自分の行った保健指導が対象者にどんな意味があったか、保健指導する上で意識していること 指導者：保健指導の振り返りをどう行っているか 統括：新人指導や記録を読んだの助言ポイント
討議で 工夫した点	意見を出しやすくするため年代ごとのグループに分けた。 グループにファシリテータとなる職能委員を配置し、軌道修正や全体と共有すべき事項の把握に努めた。
構成	8～11人 ×11グループ
討議の テーマ	グループミーティングⅡ 今後それぞれの立場で取り組むこと 新任期：気をつけること、意識すること 指導期：どんなことを意識して後輩を指導するか 統括期：新任期に力をつけるためには
討議で 工夫した点	Iと同様のグループで討議を実施。 記録係が記録に集中し話し合いに参加できないので、職能委員が記録をした。

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 3 2 1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 3 2 1
③数多くの保健師の参加が得られたか	4 3 2 1
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4 3 2 1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4 3 2 1
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4 3 2 1
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4 3 2 1
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっただか(参加者の反応等からの評価)	4 3 2 1
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4 3 2 1
考察	
<p>グループミーティングの前に事前に実施した新任期の保健指導アンケートの結果報告や新任者の実践報告が参加者に共通する内容であったため、同じ課題や悩みを持っていることを共感できた。また、指導期の保健師も新任期の思いや課題を認識できた。</p> <p>グループ人数が多すぎたことと年代分けが適切にできていなかったことから、討議が活発に行えないグループもあった。5～6人のグループで、討議内容も明確にする必要を感じた。</p>	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	<input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1
考察	
<p>グループ討議では発言が十分ではなかったが、講演やコーディネータからの助言を受け、終了時には、自身の保健指導の振り返りや気づきが見られていた。</p> <p>事前アンケート等では保健指導に対する不安や困難が伺えたが、講演、コーディネータからの助言を受け、気持ちが前向きに変化している様子がみえた。</p> <p>プリセプターは、新任期から相談を受けて、日々悩みつつ対応している状況などを、共有し、コーディネータの助言を受け、役割の確認をする機会になっていた。</p> <p>管理期の保健師も、新任期の人材育成のあり方や、組織としてのとりくみ自分達の役割について考えることができ、今後、定期的に自組織で事例検討を開催するようになりたいという意見もあり、本企画を、新任期・プリセプターそして管理期の保健師を対象に実施することにより組織的実践につながると感じた。</p>	

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 3 2 1 └───┬───┬───┘
考察	
<p>生活習慣病をテーマにしたことで、各分野からの参加があった。</p> <p>職能委員と看護協会理事と協議し、助言を受けることができ、目的とする内容が実施できた。事前に体験発表者、コーディネータ、講師と研修のねらいや伝えてほしいことを確認しておくことが大切である。</p>	

まとめ

企画段階から、職能委員や理事と研修の目標、目的の設定やプログラムについて協議し準備を進めることができた。

新任期への事前アンケートでは、17%が振り返りを実施していない現状であった。今回新任期は実践発表やグループ討議で保健指導への思いを同じ参加者と共有できた。また、コーディネータ・講師の話によって、気負いや不安、苦手意識が軽減し、保健指導の姿勢「焦らない・聴く・振り返る・継続・言う（相談する）」や視点を学び、やる気・意欲につながった。

指導期・統括期も新任期の課題を共有し、新任期教育のあり方や自分の立ち位置での役割について考えることができた。

どの分野にいても保健指導は必要なスキルであるが、今回テーマを生活習慣病にしたことで各分野からの参加も増えた。参加動機は「興味がある」「保健指導のスキルアップ」「自身の振り返り」が多く、保健指導に関する関心や意識は高い。今後も継続していくことが大切である。

反省点としてグループ人数や討議内容の明確化などがあったため、来年度は改善させより充実したものにしていきたい。

鹿児島県

保健指導ミーティングの企画

目的

- 1) 新任期及びプリセプター保健師が実践事例についてのグループ討議を通して自らの保健活動を振り返ることで、自ら考え、実践する力を身につける。
- 2) 保健師現任教育の原点としての新任期にフォーカスを当てることで、新任期やプリセプター保健師を含む保健師全体で相互に学び合う文化・ネットワーク形成を図る。
- 3) 地域に出向き、研修に参加しやすい環境作りや、地域での現任教育の一環として位置づけが進むように取り組む。

目標

- 1) 自分の実践を振り返ることができる（実践の意識化、考えや行動への気づき）
- 2) 多様なメンバーで集合知を導き出すプロセスを実感・体感する。
- 3) 事例検討の実践計画を立案でき、自分の職場での実践につなげる。
- 4) 保健師間の顔の見えるネットワークづくりができる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

保健師職能委員会	
【実施日】 H28/7/16 3時間程度 (13:30~17:00)	【実施者】 職能委員：7名 講師：名 実践事例発表者：名 コーディネータ：名 計：7名
	【実施理由】 方向性、(目的、目標)の整理及び具体的内容について検討
	【内容】 ・昨年度の保健指導ミーティング研修会の実施内容について説明 ・予算計画について ・今年度の事業内容について検討
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/9/3 2時間程度 (13:00~15:00)	【実施者】 職能委員：8名 講師：名 実践事例発表者：名 コーディネータ：名 計：8名
	【実施理由】 ・開催時期、開催場所、内容について
	【内容】 ・当日の内容について検討 ・コーディネータの依頼等について
保健師職能委員会	
【実施日】 H28/11/20 3時間程度 (9:30~12:30)	【実施者】 職能委員：6名 講師：名 実践事例発表者：名 コーディネータ：名 計：6名

	<p>【実施理由】 方向性、(目的、目標)の整理及び具体的内容について検討</p> <p>【内容】 ・昨年度の保健指導ミーティング研修会の実施内容について説明 ・今年度の事業内容について検討</p>
保健師職能委員会	
<p>【実施日】 H28/12/10 3時間程度 (9:00~12:00)</p>	<p>【実施者】 職能委員：6名 講師：名 実践事例発表者：名 コーディネータ：名 計：6名</p> <p>【実施理由】 ・事前打ち合わせ会の内容、当日のスケジュールについて検討</p> <p>【内容】 ・事前打ち合わせの内容について ・当日の進め方、スケジュール、必要物品について ・参加についての周知について ・役割分担について</p>
保健師職能委員会	
<p>【実施日】 H29/1/7 3時間程度 (9:00~12:00)</p>	<p>【実施者】 職能委員：7名 講師：名 実践事例発表者：名 コーディネータ：名 計：7名</p> <p>【実施理由】 ・当日の運営及び事前打ち合わせについて</p> <p>【内容】 ・参加状況の確認と参加者への声かけについて(再) ・アンケート内容について ・事例提供者について</p>
保健指導ミーティング打ち合わせ会及び勉強会	
<p>【実施日】 H29/1/7 3時間程度 (13:30~17:00)</p>	<p>【実施者】 職能委員：8名 講師：名 実践事例発表者：名 コーディネータ：1名、 ファシリテータ：3名 計：12名</p> <p>【実施理由】 ・従事者同士で顔合わせを行うとともに、保健指導ミーティングの目的、内容について共有し、方向性を決定するため。</p> <p>【内容】 ・昨年度の保健指導ミーティングの実施内容について、担当から説明を行い、情報共有を実施 ・シナリオを用いて、事例検討会のデモンストレーション(読み合わせ)を実施し、振り返りを実施。 ・今回実施分の内容についての打ち合わせ：目的、目標、事業内容、当日の流れ、役割等について</p>
保健指導ミーティング当日打ち合わせ	
<p>【実施日】 H29/1/20 30分程度 (9:00~9:30)</p>	<p>【実施者】 職能委員：5名 講師：0名 実践事例発表者：0名 コーディネータ：1名 ファシリテータ：3名 計：9名</p> <p>【実施理由】 最終打ち合わせ</p>

	【内容】 ・当日の流れの確認 ・役割分担の確認
保健指導ミーティング終了後反省会	
【実施日】 H29/1/20 40分程度 (16:20-17:00)	【実施者】 職能委員：5名 講師：0名 実践事例発表者：0名 コーディネータ：1名 ファシリテータ：3名 計：9名
	【実施理由】 実施後の振り返り
	【内容】 ・実施内容について、参加者アンケートを基に反省、評価を検討 ・今後の事例検討会実践普及のための取り組みについて

周知

多様な領域で働く保健師（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、児童相談所等福祉領域等）へ周知するために工夫したこと。

(1) 会員に対する取り組み

(例) 会員名簿に基づく周知、会報誌・県協会ホームページ等による周知 など

- ・ 県協会から文書にて通知。
- ・ 県協会ホームページによる周知
- ・ 県保健師長会より周知

(2) 非会員を含めた取り組み

(例) 職能委員を通じた周知、都道府県・関係団体・看護系大学等と連携した周知、県内地域包括支援センターへの文書送付、保険者協議会・地域職域連携推進協議会等と連携した周知、研修等の機会に周知、 など

・ 県保健医療福祉課看護係（保健師人材育成担当部署）に依頼し、県内全市町村に文書にて通知。

- ・ 県保健師長会より周知

・ 平成 26 年度 27 年度の研修会参加者を対象としたアンケート評価において「もう一人参加者がいれば（事例検討会を）実践しやすい」「各地区に伝わるといい」等事例検討会の広がりについての課題となる意見も聞かれたことから、本年度は研修会案内文に“職場から 2 名以上の参加”を推奨する文言を加えた。結果的に職場全体での周知・参加（声を掛け合っでの参加）につながったことから、研修会以降の自組織での継続的な事例検討会の実施を念頭に入れた周知方法になったと考える。

・ 申込期間中、適宜、申込状況を委員間で確認し「参加が少ない地域（大きくは保健所圏域）」の把握に努めた。協議の上、当該地域へは既存のネットワーク等を活用して再度周知を行い、結果的に参加に結びつけることができた。

保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会, あいさつ (始良保健所所長)	
10:05~10:30	事例検討説明	①、③
10:30~11:00	事例検討会 (デモンストレーション見学)	②
11:00~11:45	事例検討会 (デモンストレーションの実施, 共有)	①②
11:45~13:00	昼食 (班メンバーとの交流及び他班の共有内容の閲覧)	①④
13:00~13:10	概要説明	③
13:10~14:10	事例検討	②③
14:10~14:50	コミュニケーションタイム	①③④
14:50~15:20	ワールドカフェ	①③④
15:20~15:30	事例提供者から	①③④
15:30~15:45	質疑及びまとめ	①②③
15:45~16:00	看護協会入会案内及びアンケート記入依頼, 閉会	④

実践事例発表

実践事例発表の概要
なし

グループ討議

構成	8~9人 × 4グループ
討議のテーマ	①精神疾患を持つ母親への支援 ②医療保護入院となった本人と、行政に対する期待が大きい(強く要望する)母親 ③精神疾患を抱える母とその家族への支援 ④入院時に近隣住民とトラブルのあった精神障害者の地域での支援

<p>討議で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① グルーピングにおいて、事例検討会の普及啓発と、今後、事務所で検討会ができるように新人期とプリセプター、指導者を同じ編成とした。 ② 保健師間のネットワーク構築と地域毎に検討会ができるように、同じ地域で編成した。 ③ 日常、事例に関わる業務を担っているため、緊急にケース調整会議を行う場合もあることを想定して、当日グループ内で役割分担を行った。 ④ 情報整理のプロセスを明確にし、共有するための必需品として、白板を捉え、レンタルを利用した。 ⑤ 白板の活用を進めるために、項目を明記した「マグネットラベル」準備し活用した。 ⑥ 日本看護協会シナリオで全体ロールプレイのデモンストレーションを実施した。その後、さらに同じシナリオを使って各グループでロールプレイを実施することで、疑似体験ができるようにした。 ⑦ 各グループを事例に集中しやすい配置となる会場づくりとした。 (検討会の実施中はイスのみの使用とし(机を使用しない等)、参加者同士が膝を交わらせて対話できる環境を目指した)
-----------------	---

保健指導ミーティングの評価

実施評価

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4 3 2 1 4
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4 3 2 1 4
③数多くの保健師の参加が得られたか	4 3 2 1 3
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4 3 2 1 3
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4 3 2 1 4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4 3 2 1 4
⑦ファシリテータは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4 3 2 1 3
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか(参加者の反応等からの評価)	4 3 2 1 3
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4 3 2 1 4
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・(一定の議題で検討が留まり) 事例検討が最後まで進まないグループがあった。進み具合を見ながら、進行を促す声掛けを行った。 ・繰り返し参加の呼びかけを行うことで、新任期を含め、様々な地域や領域からの参加が得られた。参加について、一所属から複数の参加者があった。 ・参加者の中には、1回参加している方もあり、再度検討会について進め方等の振り返りを行っていた。 ・ファシリテータについて、事例提供者と事前に話しておきたいという意見が多かった。 	

【評価基準】
 4. 非常にそう思う(とてもできた)
 3. ややそう思う(ややできた)
 2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
 1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4 3 2 1 ○
②新任期の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4 3 2 1 ○
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4 3 2 1 ○
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4 3 2 1 ○
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4 3 2 1 ○
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4 3 2 1 ○
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4 3 2 1 ○
⑧参加者の満足を得ることができたか	4 3 2 1 ○
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4 3 2 1 ○
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの際、グループ編成を地域別にするすることで、地域ごとのネットワークができるよう工夫した。また、プリセプターとしての振り返りや、仲間作りにもつながった。 ・ワールドカフェ方式にしたことで、同地域の保健師間のつながりを作りつつ、多数の方と交流が図れた。 ・昨年度の反省を元に今年度は、『事例検討の手法』についての説明の時間を設け理解に繋がった。 ・質問の時間を設けたことで、事例検討会への理解も進んだ。 ・事例提供者とファシリテータの打ち合わせの時間が必要だった。 	

【評価基準】

4. 非常にそう思う(とてもできた)
3. ややそう思う(ややできた)
2. あまりそう思わない(あまりできなかった)
1. 全くそう思わない(全くできなかった)

評価項目	評価
①新任期の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか。	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4 3 2 1 └─┬─┬─┬─┘
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・企画段階から、職能委員だけでなく、協力員，県保健師長会，県保健医療福祉課（保健師人材育成担当部署）が参加し，連携して進めた。 ・地域に出向いて検討会を開催し，身近な関係者同士の顔の見える関係に繋がった。 	

まとめ

- ・事例検討会の後に実施したワールドカフェも「どのように工夫したら“自職場”で実施できるか？」という実践的な状況を意図して組み立てたことで、より「研修会で体験したことを、自分たちが職場にどう持ち帰るか？」の具体的な構想を立てられるよう配慮できたと考える。
- ・手法を学ぶことと手法を実際に現場で実践するために必要なことを考えることができた。
- ・県保健師長会，県，コーディネータと企画初期から積極的に連携し，効果的なミーティングが実施できるよう計画した。今回をきっかけに関係機関がより密に連携し，保健師人材育成に取り組んでいけると良い。
- ・今回は，地域に出向き開催したことで，地域内での保健師ネットワークの形成につながった。
- ・今後は，再度集約して検討会を実施し，事例検討会の普及や周知に取り組む予定。

資 料

II. 本日の保健指導ミーティングについてお尋ねします。

1. 今回はどのような内容でしたか(○はいくつでも)

[1. 講演会 2. 事例検討 3. 実践事例発表 4. グループワーク 5. その他]

2. 以下の項目について、該当する番号に○を付けてください。(○は1つだけ)

質問	回答欄			
	4. 非常に そう思う	3. ややそ う思う	2. あまりそ う思わ ない	1. 全くそ う思わ ない
〔皆様へお伺いします〕				
(1) 参加者同士の交流ができましたか	4	3	2	1
(2) 自身に必要なことを学ぶことができましたか	4	3	2	1
(3) 今後もやりとりできるような関係づくりができましたか	4	3	2	1
(4) グループ討議では、ご自身も積極的に発言できましたか	4	3	2	1
(5) ご自身の保健指導の課題について気づくことができましたか	4	3	2	1
(6) 今後のスキルアップへの動機づけができましたか	4	3	2	1
(7) 強化すべきご自身のスキルを明確にすることができましたか	4	3	2	1
(8) グループ討議は、ご自身にとって役に立つ内容でしたか	4	3	2	1
(9) 時間配分は、適切でしたか	4	3	2	1
(10) 開催回数は、適切でしたか	4	3	2	1
〔2. 事例検討に○をつけた方にお伺いします〕				
(1) 事例検討が重要であると思う内容でしたか	4	3	2	1
(2) アセスメントが重要であると気づく内容でしたか	4	3	2	1

■その他ご意見等ございましたらお聞かせください。

■アンケート結果は、本事業の目的以外には使用せず、分析は統計的に処理するとともに適切な取り扱いをします。

個人が特定されることはございませんので、ご安心下さい。

ご協力ありがとうございました。

平成 28 年度 厚生労働省保健指導支援事業人材育成事業

「保健指導ミーティングの開催」実施報告

平成 28 年 厚生労働省
保健指導支援事業 人材育成事業

保健指導ミーティングの開催 実施報告

発行日 2017 年 3 月 31 日
編集 公益社団法人 日本看護協会 健康政策部保健師課
発行 公益社団法人 日本看護協会
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
TEL 03-5778-8831 (代表)
FAX 03-5778-5601 (代表)
URL <http://www.nurse.or.jp>

※本書からの無断転載を禁ずる